

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 大野城市社会福祉協議会

令和3年度事業報告

★総括★

＜事務局長 馬場 徹＞

2021年(令和3年)は、世界中に蔓延したコロナウイルス感染拡大により、様々な事業が中止になったり内容の見直しが図られました。対面で行っていた会議や福祉教育等は、オンラインを活用したり、また令和2年度から続くコロナ禍で生活が困窮となった世帯への臨時特例貸付の申請は、これまでに900件を越す申請手続きを行いました。

また市内の企業等のご協力により、食料品等のご寄附を賜り、頂いた食料品はふーちゃんパントリーと称して、コロナの影響で生活にお困りの方々に提供することができました。

市と一体的に策定している大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画は、令和3年に第3期の計画が策定され、10の重点事業が掲げられました。その中のいくつかは、令和3年度に地域の関係者等を対象にアンケート調査を行い、その集計結果をもとに今後の事業を改編する準備に着手しました。また重点事業の1つでもあり、新規事業となる死後事務の準備にも取り組み、令和4年度から正式に開始する運びとなりました。

さらに、大野城市社会福祉協議会が法人化50周年を迎える令和4年度に向けて、各部署から選任された職員でプロジェクトチームを立ち上げ、令和4年10月に開催予定の50周年記念事業の企画運営について協議を重ねています。これから50周年の節目を迎え、さらにその先もずっと職員全体で地域福祉を邁進していきます。

重点事業

以下☆マーク…第3期市民活動推進計画

◇総務企画課◇

＜課長 高原 信治＞

《健全な法人運営と業務の効率化》

・新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続くなか、一般寄附は減少したものの社協会員会費や赤い羽根共同募金については令和2年度の実績を上回りました。しかし、介護保険事業については減収となっていますので利用者増のための取り組みをおこなってまいります。

・リモートによる講座や研修会等に対応するためのインターネット環境の整備をおこなうことができました。

・老朽化が進んでいた福祉バスとリフトカーについては新車両へのリース契約をおこない、入浴車については24時間テレビによる車両助成をうけて整備することができました。

《総合福祉センター利活用》

・安心して使用できる施設を目指すため、センターの防水工事、エレベータ機器の取替え、自動ドアの交換などハード面での維持管理をおこないました。

・新型コロナウイルスの影響により、福祉団体やボランティア団体の活動や研修の在り方も変化しており、総合福祉センター全館にフリーWi-Fiを導入し、活動に参加しやすい環境づくりに努めました。

《指定寄附の執行》

・東北応援N基金による東北応援ツアーは新型コロナウイルスのまん延状況により延期しており、令和4年度の実施にむけて計画していきます。

・食料品等の無料配布をおこなう「ふーちゃんパントリー」を設置し、困った人を助ける取り組みをおこないました。

◇地域課◇

<係長 金丸 龍彦>

<係長 山内 友香>

≪市民ニーズの調査研究≫

☆地域課題に対応していくため、コミュニティ運営協議会が主催する『番茶の会』のアンケート調査や、働き盛り世代の介護者を支える取り組みを探るための介護専門機関・事業所へのアンケート調査、マンションと連携した地域づくりを推進していくための集合住宅に関わりがある区へのアンケート調査などを行い、地域課題の把握や、これまで行われてきた地域福祉活動の意義の再確認を行いました。

≪第2層協議体との連携強化≫

☆大野城市での生活支援体制整備事業では、各コミュニティを単位とした第2層協議体がそれぞれに地域課題の抽出や新たなニーズの発掘を行い、課題に取り組むための研修の実施や、アンケート実施、見守りに活用できる配布物の作成を企画の段階から協働しました。

≪災害時の助け合いの仕組み≫

令和3年8月の大雨、9月の台風14号の際、市担当部署並びに公民館と連携して組布団を搬入し、避難者支援を行いました。(延べ9公民館 29組の布団貸出)

≪未来へつながるボランティア活動≫

☆学生の視点からのボランティア活動を考える委員会として young ボランティアセンター運営委員会『Young Free Helper』を立ち上げました。委員会で活動内容を決め、ボランティア活動を実施し、Instagramによって情報発信やメンバー募集をしています。

≪地域福祉活動≫

・コロナ禍につながるツールとしてオンラインミーティング講座やスマホ講座を行う地区コミュニティ福祉部会と、企画の段階から協働しました。また、研修を動画撮影し、地区の福祉推進委員会などで視聴ができるようにすることで多くの方が研修内容を学ぶことができました。

≪福祉教育≫

☆小学校の福祉教育では「オンライン交流」と「教室でできるミニ体験」を中心に実施しました。市内の社会福祉施設や当事者の方々との交流や、教育関係の民間企業から動画提供などの協力を頂きながら、福祉をよりわかりやすく身近なこととして伝えていくことができました。

≪コロナ禍の在宅福祉事業≫

・車いすユーザーのワクチン接種について、市と連携してハンディキャブやリフトカーの運行での送迎支援や、ワクチン接種会場での車いす貸出しを行いました。

≪共同募金≫

・福岡県共同募金会大野城市支会の規程改正をはかりました。
・『赤い羽根共同募金のつどい』は、新型コロナウイルス拡大予防のために会場型でなく、受配団体や協力企業のインタビューを撮影し、YouTubeにアップロードをして市民に啓発を図りました。

◇権利擁護課◇

<課長 井上 修>

≪総合相談事業≫

・総合相談事業において、各専門機関の情報収集を行い、総合福祉センター内にチラシを掲示したり、社協ホームページに専門機関へのリンクを貼り付けたり、配布された資料等を相談室内に配置を行いました。

≪日常生活自立支援事業≫

☆大野城市社協の主催により大野城市総合福祉センターで生活支援員の養成研修を行い、令和4年度より3名生活支援員が増員することになりました。

≪他機関連携≫

・日常生活自立支援事業から後見制度への移行を行うために、居宅介護支援事業所・包括支援センター・法テラス・司法書士と連携を行い、後見人等へ移行を行うことが出来ました。

☆生活支援課へ状況確認を行い、弁護士に相談を行い、令和4年度より死後事務事業を行うことになりました。

《働き盛り世代の介護者支援》

☆地域課と協力し、関係機関へのアンケート内容や実施時期について協議行ってまいりました。

《居宅介護支援事業》

・コロナ禍において急な対応への連絡調整などに対し、ご利用者さまご家族さまの様々な家庭環境課題をふまえた上でフォーマル・インフォーマル併せ持つ支援を行ってまいりました。

《居宅介護サービス事業》

・人材不足とヘルパーの高齢化により、障がい福祉サービスの提供地域拡大を延期させていただいております。

・コロナ禍において、各種事業の支援の在り方に変化が出てきております。変わりゆく新型コロナウイルス感染症への対応情報の内容を精査しながら、赤ちゃんから高齢者の方へ助言含めた支援を行ってまいりました。

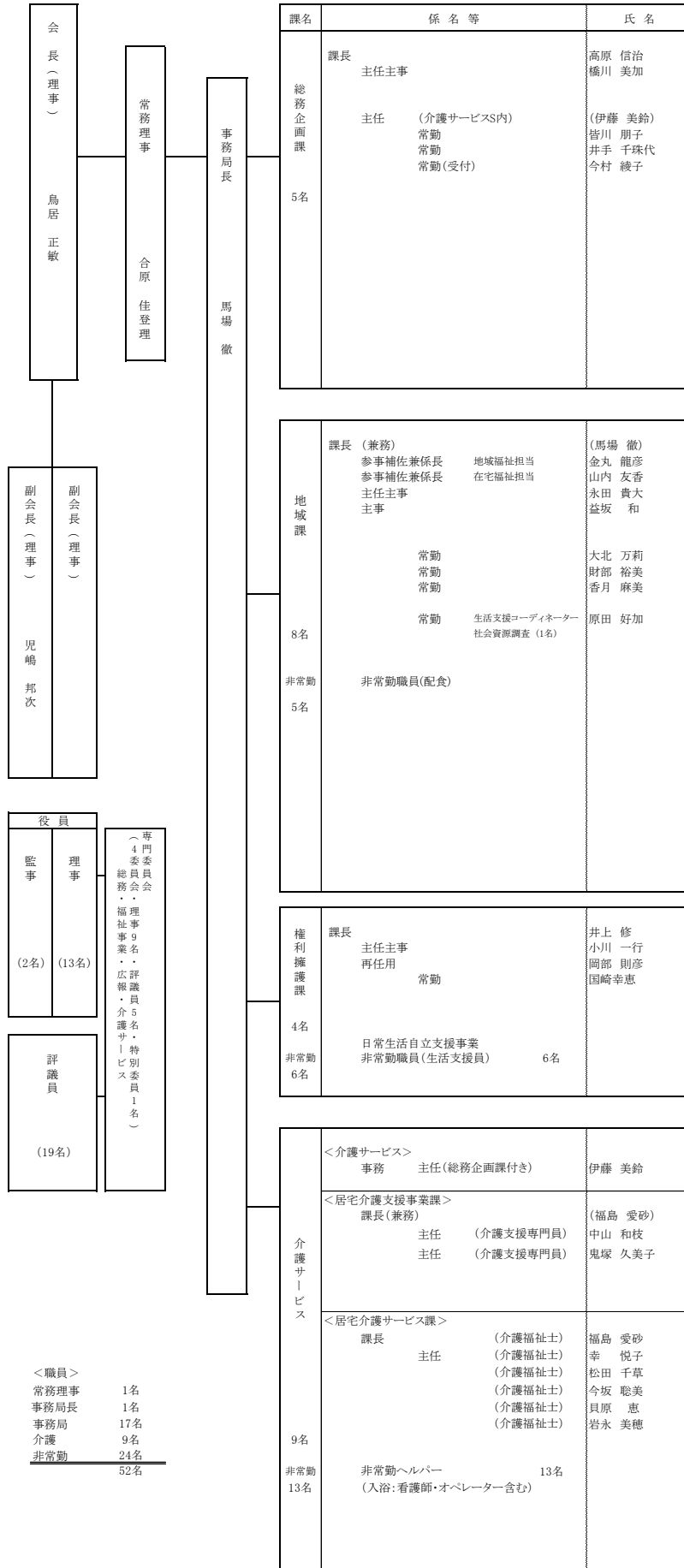
また、時代の流れにおいて変わりゆく困難ケースにも丁寧に対応してまいりました。

令和3年度 事業報告書



目次

組織図	5	20. 児童青少年福祉対策事業	31
令和3年度職員体制	6	21. 学校における福祉教育	31
執行機関 理事会	7	22. 母子父子福祉対策事業	34
議決機関 評議員会	7	23. 在宅介護者支援事業	35
監査	8	24. ふくしフェスティバル2021	35
評議員選任・解任委員会	8	25. 福祉食事サービス	36
専門委員会	8	26. ボランティア活動推進	36
		27. 被災地支援活動	42
総務企画課		権利擁護課	
1. 理事会・評議員会等	9	28. 総合相談事業	43
2. 専門委員会	10	29. 生活福祉資金貸付事業	44
3. 情報公開	10	30. 日常生活自立支援事業	45
4. 寄附受入事業	12	31. 法人後見事業	46
		32. ライフレスキュー事業	47
地域課		介護サービス	
5. 社協会員推進事業	14	33. 介護サービス事業	48
6. 大野城市地域福祉活動における 市民活動推進計画	14	その他	
7. 地域福祉推進事業	15	34. 社会福祉援助技術現場実習受入	51
8. 社会福祉法人ネットワークの構築	19	35. 職員の資格（取得）状況	52
9. 大野城市生活支援体制整備事業	20	36. 職員内部研修	53
10. 広報関係	25	参考資料	
11. リフトカー運行事業	26	社会福祉人 福岡県共同募金会	
12. 福祉バス運行事業	27	大野城市支会	54
13. 福祉用具貸出事業	27	【2021年度 事業方針】	56
14. 福祉リサイクル事業	27		
15. ハンディキャブ貸出事業	27		
16. 高齢者福祉対策事業	28		
17. 身体障がい者福祉対策事業	28		
18. 知的障がい者福祉対策事業	29		
19. 子育て支援事業	29		



令和3年度職員体制（令和4年3月31日現在）

事務局長(地域課長兼務)	1名	
総務企画課	6名	(内、再任用職員1名、常勤職員3名)
地域課	13名	(内、常勤職員4名、非常勤職員5名)
権利擁護課	10名	(内、再任用職員1名、常勤職員1名、非常勤職員6名)
居宅介護支援事業課	2名	
居宅介護サービス課	20名	(内、非常勤13名)
総数	52名	

プロジェクトチーム

課を横断したチームを作り業務を遂行するとともに、職員相互の連携協力により、組織一丸となり、事業・活動を展開。

ボランティアエントリーシステム
第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画(市協働)
ふくしフェスティバル(市協働)
権利擁護事業における事業開発の研究:死後事務等
学校における福祉教育
法人化50周年記念プロジェクトチーム

大野城市社会福祉協議会組織構成

執行機関 理事会名簿(13名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
識見を有する者	鳥 居 正 敏
大野城市区長会	児 嶋 邦 次
大野城市民生委員児童委員連合協議会	澁 田 義 治
大野城市シニアクラブ連合会	田 中 泰 彦
大野城市商工会	花 田 稔 之
筑紫農業協同組合	楠 林 義 治
大野城市小中学校校長会	陶 山 嘉 一
大野城市身体障がい者福祉協会	石 津 美 和 子
大野城市福祉委員会	藤 不 二 乃
社会福祉法人 悠生会	佐 野 裕
大野城市ボランティア連絡協議会	原 妙 子
大野城市食生活改善推進会	高 田 恵 子
識見を有する者	合 原 佳 登 理

議決機関 評議員会名簿(19名)

(敬称略)

推薦母体	氏 名
大野城市区長会	藤 田 實
大野城市民生委員児童委員連合協議会	妹 尾 洋 子
大野城市シニアクラブ連合会	鬼 塚 春 光
大野城市商工会	原 一 郎
大野城市身体障がい者福祉協会	麻 生 政 昭
大野城市福祉委員会	中 野 久 美 子
大野城市ボランティア連絡協議会	森 敏 江
大野城市食生活改善推進会	川 端 宏 子
大野城市役所	石 川 茂
大野城市議会	福 澤 信 光
筑紫保護区保護司会大野城支部	高 木 秀 和
春日警察署少年補導員連絡会	角 光 枝
大野城市子ども会育成会連絡協議会	橋 口 清 美
大野城市手をつなぐ育成会	赤 井 田 八 千 代
大野城市教育委員会	清 尾 昌 利
大野城市保育所連盟	桑 戸 真 央
社会福祉法人 あけぼの福祉会	野 田 江 美
大野城市母子寡婦福祉会	田 口 富 恵

監査機関(2名)

(敬称略)

推薦母体	氏名
大野城市商工会	原田 康男
識見を有する者	佐藤 義廣

評議員選任・解任委員会(5名)

区分	氏名
外部委員	藤田 博久
外部委員	間 かのる
外部委員	金子 重紀
社協監事	佐藤 義廣
社協事務局職員	高原 信治

専門委員会

委員会名	区分	氏名
総務委員会	理事	楠林 義治
	評議員	赤井田 八千代
	評議員	石川 茂
福祉事業委員会	理事	藤 不二乃
	理事	佐野 裕
	理事	陶山 嘉一
	評議員	森 敏江
	特別委員	藤田 博久
広報委員会	理事	花田 稔之
	評議員	川端 宏子
	評議員	中野 久美子
	評議員	野田 江美
介護サービス事業運営委員会	理事	田中 泰彦
	理事	原 妙子
	評議員	妹尾 洋子

<総務企画課>

1. 理事会・評議員会等

会計(サービス区分)

理事・監事の任期は、令和3年6月25日から令和5年定時評議員会終了時まで。

法人運営費

評議員の任期は、令和3年6月25日から令和7年定時評議員会終了時まで。

1 理事会開催状況 (理事総数 13名)

開催年月日		議 題		出席者	
令和3年	5月26日	第1回	第1号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会評議員候補者の推薦ならびに評議員選任・解任委員会の開催について	12名
	6月8日	第2回	第2号議案から第6号議案	令和2年度社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告書について 他	10名
	6月25日	第3回	第7号議案から第8号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会会長、副会長及び常務理事の選任について 他	12名
	12月2日	第4回	報告事項	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会規程の改正について 令和3年度人事勧告について他	10名
令和4年	3月9日	第5回	第9号議案から第13号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和4年度事業計画(案)について 他	11名

正副会長会の開催 …… 打合せ会議開催
(令和3年6月7日、令和4年2月28日)
理事会・評議員会の議案の事前審議

2 監事会の開催状況

開催年月日	監 査 内 容		出席者
令和3年	5月12日	令和2年度 業務・会計監査	2名
	11月17日	令和3年度 業務・会計中間監査	2名

3 評議員会開催状況 (評議員総数 18名)

開催年月日			議 題		出席者
令和3年	5月26日	第1回	第1号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会理事・監事の任期満了に伴う選任について	14名
	6月24日	第2回	第2号議案から 第4号議案	令和2年度社会福祉法人大野城市社会福祉協議会事業報告書について 他	16名
	6月25日	第3回	—	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会の概要について	14名
令和4年	3月24日	第4回	第5号議案から 第7号議案	社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和4年度事業計画(案)について 社会福祉法人大野城市社会福祉協議会令和4年資金収支予算書(案)について	14名

4 評議員選任・解任委員会開催状況 (委員総数 5名)

開催年月日			議 題		出席者
令和3年	6月3日	第1回	評議員の選任について		5名
	6月16日	第2回	評議員の選任について(書面表決)		5名

2. 専門委員会

法人運営費

1 合同委員会開催状況

開催年月日		議 題		出席者
令和3年8月5日		第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画の概要について 他		13名

2 専門委員会開催状況

委員会名	開催年月日	議 題
総務委員会	令和3年8月 5日	総務委員会について 他
広報委員会	令和3年8月 5日	広報委員会について 社協だより186号 2021.9.15について
	8月 20日	社協だより186号 2021.9.15について
	10月 6日	社協だより187号 2021.11.15について
	10月 20日	社協だより187号 2021.11.15について
	令和4年1月 7日	社協だより188号 2022.2.15について
	1月 18日	社協だより188号 2022.2.15について
	3月 16日	社協だより189号 2022.4.15について
	3月 23日	社協だより189号 2022.4.15について
福祉事業委員会	令和3年8月 5日	福祉事業委員会について 他
	令和4年2月 14日	令和4年度事業計画(案)について
介護サービス事業運営委員会	令和3年8月 5日	介護サービス事業運営委員会について 他

3. 情報公表

法人運営費

市民の福祉活動への理解と信頼及び積極的な参加を促すことを目的に、社協だよりやホームページ、財務諸表等電子開示システム等にて情報を公開していく。

4. 寄附受入事業

法人運営費

寄附金は在宅高齢者・障がい者の方への支援事業やボランティアセンター運営事業など社会福祉協議会が行なう民間社会福祉事業に活用されている。

※寄附種別

一般寄附 …… 個人、団体の善意による寄附
 香典返し寄附 …… 故人並びにご遺族のご遺志による寄附
 指定寄附 …… 指定した事業に充てられる寄附
 物品寄附 …… 車いす、紙オムツなど物品による寄附

令和3年度実績

◇寄附受入事業実績

寄附種別	件数	寄附内容
一般寄附	44件	2,062,057円
香典返し寄附	15件	687,792円
(合計)	59件	2,749,849円
物品寄附	122件	・福祉用具 車いす6台、シルバーカー2台、尿器1個 ポータルトイレ1個、シャワーチェア1個 プレクストークPTR3バージョンアップCD2枚 紙おむつ・パッド15件、杖2本 スリングシート3枚 ・感染予防 マスク264枚、プラスチックエプロン10箱 フェイスシールド4個、アルコール消毒液1件 ・その他 食料品36件、家庭用雑貨21件、衣類23件 煉炭20個、ミトン3本、チャイルドシート2台 花器1件、寝具6件、家電等4件 文具4件、事務用品1件、生理用品4件 家具3件、室内用遊具3件、食器3件 鍋1個、ベビーカー1台、カレンダー2件 ランドセル1個 アルミフルトップ3件、ペットボトルキャップ2件 切手・ハガキ等は換金し、一般寄附へ

※福岡県社協では(株)セブン-イレブン・ジャパンと商品寄贈に関する協定を締結し、県内の市町村社協等へ雑貨や食品を配布している。大野城市社協へ受贈された食品は、福祉団体等へ繋いだ。

一税控除の適応について一く社会福祉協議会へのご寄附は特定寄附金です。寄附領収証を提示してください。>

個人寄附者

$$\text{寄附金控除額} = \left. \begin{array}{l} 1月\sim 12月まで \\ \text{特定寄附金} \\ \text{総所得の40\%相当額} \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{どちらか} \\ \text{少ない額} \end{array} - 2,000\text{円}$$

$$\text{企業寄附者全額損金算入限度額} = \frac{1月\sim 12月まで}{(\text{資本金の}0.25\%) + (\text{所得の金額の}5\%)} \div 2$$

★但し、税制改正により変更になることがあります。

4-2. フードパントリー

市内の企業等から寄贈いただいた食料をこれまでは、主に個別ニーズに応じていたが、食料支援の窓口を拡大し、『ふーちゃんパントリー』と題し、9月10日からと1月14日からそれぞれ1ヶ月間、どなたでも利用いただける会場を設置した。コロナ禍で人との付き合いが希薄化する中、寄贈品を通して笑顔が見える活動に繋ぐことができた。



4-3. 車両の寄贈

令和4年1月26日
生命保険協会福岡協会様より、社会貢献活動として、生命保険会社社員約10,000名による募金活動を実施し、募金を財源に福祉巡回車を寄贈いただいた。



令和4年2月22日
24時間テレビ〜愛は地球を救う〜様より
入浴車を寄贈いただいた。



<地域課>

5. 社協会員推進事業

法人運営費

住民に賛同を助け、地域の福祉活動の充実を目指し、行政・区長・組長さんなど住民の協力のもと啓発・推進を進める事業。27区の行政区に地域福祉活動助成金として社協会員会費を共同募金配分金にあわせて交付。区で行われる組長会に、お願いに伺っている。

令和3年度合計		
件数	口数	金額
13,406 件	21,255 口	11,498,870 円
前年比	102%	102%

6. 大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画

市と社協が一体的に策定した本計画は第3期目となる。今期は更なる地域福祉の推進を図るために、「多彩な人材が地域で活躍 支え手と受け手を超えて～ともに生きる地域社会の構築～」を基本理念に掲げ、4つの基本目標のもと、第2期計画から継続する3つの事業と7つの新規事業で構成された10の重点事業に取り組んでいく。

◇大野城市やすらぎのまち市民協議会…4回開催

開催年月日		議 題	出席者
令和3年	7月29日 第1回	<ul style="list-style-type: none"> 委嘱状交付式 スケジュール・進行管理評価シートについて説明 重点事業内容説明 	9名
	10月1日 第2回	<ul style="list-style-type: none"> 書面協議(各委員から意見をいただく) 	9名
	12月17日 第3回	<ul style="list-style-type: none"> 重点事業説明 グループ協議 	9名
令和4年	3月28日 第4回	<ul style="list-style-type: none"> 重点事業説明 グループ協議 	9名

1 第3期計画における重点事業

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| ① 働き盛り世代の介護者を支える新たな地域福祉活動の取組 | ⑥ マンションと連携した地域づくり |
| ② 学校と地域をつなぐ福祉教育共同推進事業 | ⑦ 地域福祉の更なる充実を目指した地域支援者同士の連携強化 |
| ③ 福祉の理解を深めるためのふくしフェスティバルの実施 | ⑧ 災害時の助け合いを実現するための見守り体制の構築 |
| ④ 世代を超えて未来へつながるボランティア活動の促進 | ⑨ 権利擁護事業の研修会の実施と担い手の拡充 |
| ⑤ 身近な地域のイベントやサロン活動のあり方を考える調査研究 | ⑩ 人生を自分らしく生き抜くためのサポート |

7. 地域福祉推進事業

令和3年度実績

法人運営費

共募／福祉育成・援助活動

1 福祉委員会活動事業(第20期)

各区に1名の福祉委員を委嘱し、偶数月に定例会議を実施している。

定例会の開催

期 日	内 容
令和3年4月14日(水)	✿令和3年度社会福祉協議会事業計画について 他
令和3年6月9日(水)	✿緊急事態宣言延長の為開催中止
令和3年8月11日(水)	✿福祉委員の役割について 他
令和3年10月13日(水)	✿そこまで言って(福祉)委員会 ～久しぶりにグループワークします～ 他
令和3年12月8日(水)	✿そこまで言って(福祉)委員会の共有 ～気になることを聞いてみよう～ 他
令和4年2月9日(水)	✿福祉バスが新車になりました！(利用方法の説明) 他

2 福祉育成援助活動

27区の行政区に地域福祉活動助成金として共同募金配分金を交付。

3 地域ケア会議

目 的：高齢者の状況を中心に市(基幹型地域包括支援センター)、地域、民生委員、福祉委員、各地区地域包括支援センター、社会福祉協議会がさまざまな情報を共有し、地域での見守り活動や支援活動を推進することを目的に開催され、社協から地区担当者等が構成員として出席している。

社協から伝える情報を会議参加者と共有するために、社協のサービス利用者情報一覧を会議時に配布し、会議参加者での情報共有を行った。

開催状況 26区/104回(昨年 26区/111回)

4 各区の地域福祉推進委員会の開催状況

各地域で定例的に開催されている地域福祉推進委員会(福祉部会)の会議等に、社協職員はコミュニティワーカーとして各地域の福祉活動を支援している。

会議の進め方は地域の主体性に委ねるところが多いが、ほとんどの地域で社会福祉協議会からの情報提供の時間が用意され、福祉委員からも推進委員へ社協の状況を伝える区が増えた。

令和3年度は、「新しい生活様式」での福祉活動について話し合われることが増えた。

地区担当(南:山内 中央:永田 東:永田 北:金丸) (開催回数:145回)※前年比 302%

5 大野城市コミュニティ福祉部会連絡協議会の開催状況

【偶数月第1月曜日開催】

各コミュニティ福祉部会間の連携強化及び情報交換を目的に設置された本協議会の事務局として地域福祉活動の活性化を図る。

◇協議会の開催

期 日	内 容
令和3年4月5日(月)	○社会福祉協議会事務局体制と令和3年度事業計画について ○スクラムフォーラム報告
令和3年6月7日(月)	○社協事業計画・運営要綱説明・役員選出 ○各コミュニティ福祉部年間計画等
令和3年8月2日(月)	○コミュニティ福祉部会に関する市内のうごき ○第3期市民活動推進計画について
令和3年10月4日(月)	○身近なイベント・サロンのあり方を考える調査研究について ○各コミュニティ福祉部会の活動について
令和3年12月6日(月)	○番茶の会調査に関する進捗や社会資源の取材報告 ○各コミュニティ福祉部会の活動について
令和4年2月7日(月)	○令和3年度コミュニティ福祉部会活動振り返り ○来年度の計画について

◇各地区コミュニティ福祉部会の開催状況

各コミュニティで定例的に開催される福祉部会の会議に、社協職員はコミュニティワーカーとして各コミュニティの地域福祉活動を支援している。

(開催回数 16回)

各地区福祉部会	定例会開催回数	主な活動
南コミュニティ福祉部会	7回	・定例会開催 ・地域福祉活動者を対象にしたスマホ講座開催
中央地区コミュニティ運営協議会福祉部会	4回 <small>※書面票決含む</small>	・令和3年度事業計画・予算等について ・「福祉推進委員の集い『住みやすいと実感できる人づくり・地域づくり』/講師:筑紫女学園大学 山崎安則 教授)

東地区コミュニティ運営協議会専門部会 福祉部	4 回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業計画・予算等について ・各区福祉部会活動計画と情報交換 ・ふーちゃんゼミナール『オンラインミーティングをやってみませんか?』 ・ふーちゃんゼミナール『オンラインミーティングをやってみませんか?PART2』 ～LINE でつながる地域の活動～
北コミュニティ福祉部会	1 回	<ul style="list-style-type: none"> ❀北地区子育てサロンについて ❀北地区福祉推進委員合同研修会

6 民生委員児童委員連合協議会活動との協働

◇各地区のコミュニティ福祉部会の活動状況

番茶の会(ひとり暮らし高齢者のつどい)・・・番茶の会のあり方を考えるための調査研究として主催者側アンケート回答や、対象者側アンケートの配布に協力を頂いた。

◇大野城市民生委員・児童委員連合協議会専門部会の研修において「ふーちゃんゼミナール」を活用して頂き、制度や事業について知識を深める時間を共有することができた。

◇地域ケア会議などで見守りが必要な方々の情報の共有・連携をしている。

◇社会福祉援助技術実習生が民生委員・児童委員を学ぶプログラムにおいて、職務・活動の説明ややりがいなどをお話頂いている。

◇民生委員児童委員連合協議会は、民生委員法及び児童福祉法に基づき要援護者の見守り等、各区の福祉委員とともに地域福祉のキーパーソンとして活動がなされている。

社会福祉協議会の心配ごと相談(無料法律相談)・生活福祉資金貸付・学校における福祉教育などを協働しておこなっている。

7 ふーちゃんゼミナール

令和3年度も新型コロナウイルスの影響で地域の活動がほとんどできないため、ふーちゃんゼミナールの申込も非常に少ない状況である。

◇ ふーちゃんゼミナール開催状況

開催日	内容	受講団体名	参加者数	担当職員・協力団体
4月5日(月)	向こう三軒両隣ってなに?	平野台区福祉部	29名	山内
7月12日(月)	向こう三軒両隣ってなに?	東コミュニティ福祉部会 専門部会福祉部	26名	永田
11月25日(木)	ここが知りたい!介護保険	大野城市民生委員児童委員連 合協議会高齢者・障がい者部会	33名	鬼塚
11月26日(金)	備えて安心!知っておきたい認知症の 基本	仲島区福祉推進委員会	11名	幸
12月1日(水)	コミュニケーションマージャンの遊び方	平野台区福祉部	25名	山内 大北

5回 参加人数延べ124名(前年比72.94%)

8 法外援護対策

大雨や台風接近時、業者から組布団を借入し、公民館に避難者の受け入れ状況を確認し、布団の搬入を行った。

令和3年度実績

◆令和3年8月豪雨災害

8月11日以降、日本付近に停滞している前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になった。この影響により、西日本から東日本の広い範囲で大雨となり、11日からの総降水量が、多いところで1400ミリを超える記録的な大雨となった。・・・(8区25組)

◆令和3年台風14号

9月7日に発生した台風。統計史上初めて、福岡県に上陸した台風である。・・・(1区4組)

9 コミュニケーションマージャン貸出状況

各区で行われているミニデイや、各団体のレクリエーション等で、仲間づくりや特に男性の参加者をもっと増やすことを目的に、コミュニケーションマージャン(2セット)を貸出している。

貸出地区・団体	貸出回数
平野台区福祉部	1回
牛頸区福祉推進委員会	3回

コミュニケーションマージャン貸出状況・・・4件(前年0件)

10 (仮称) 認知症地域見守り訓練

声かけ訓練の実施はなかったが、ふーちゃんゼミナールで認知症をテーマにした講座を実施したり、小学生を対象にした福祉教育で認知症に関する授業を行った。今後も認知症について正しく理解してもらえるよう啓発を行っていく。

11 区長と社協との懇談会

わがまち大野城市の地域共生社会をめざして伴に地域福祉を推進することを目的に、区長と社協との懇談会をコミュニティごとに開催した。令和3年度は下記の内容で意見交換を行った。

【開催日】南コミ 2/24・中央コミ 2/16・東コミ 2/17・北コミ 2/16

【テーマ】①社協会員会費・赤い羽根共同募金について ②地域ケア会議について
③地域活動の人材発掘について ④その他

12 大野城市民総ぐるみ防災訓練

11月27日感染症対策を意識した避難所設置訓練が開催され、社協からも職員が参加した。

8. 社会福祉法人のネットワークの構築

法人運営費

社会福祉法人・福祉施設は、それぞれに専門性を有しており、それをどう地域へ活かすかなど複数の法人による情報交換と法人同士の「顔が見える関係」をつくるため、平成30年度に設立された社会福祉法人連絡会では、分野が違う社会福祉法人相互の連携・協働の取組を進めている。総会を経て初めての役員交代が行われ、定例会議では、新型コロナウイルスの感染症対策として、オンライン会議を試みた。

令和3年度実績

社会福祉法人連絡会総会

時 期 : 令和3年4月22日(木) 書面表決提出 ~ 7月26日(月) 書面表決結果報告
形 式 : 書面表決 (定数13 書面表決数13)
内 容 : 令和2年度事業報告・収支決算報告
役員・事務局体制(案)
令和3年度事業計画(案)・収支予算(案)

社会福祉法人連絡会連絡会議の開催 [主に各法人実務担当者の会議]

【第1回】

日 時 : 令和3年8月19日(木)
形 式 : Zoomを用いたオンライン会議
内 容 : 新型コロナウイルス感染症対策における法人の対応と現状について
地域の困りごと等について
大野城市社会福祉法人連絡会の今後の活動の在り方について
参加者 : 9法人11名(社協2名)

9. 大野城市生活支援体制整備事業(市受託事業)

生活支援体制整備事業

令和3年度は、令和2年度に設置された各第2層協議体の構成員の加入・変更もあり、各4地域が6・7月中旬に第2層協議体の第1回目を開催の運びとなった。


1 大野城市生活支援体制整備第1層協議体(もやいネット大野城)の開催

大野城市が目指す地域の姿を共有し、これから進めていくべき「地域共生社会」のまちづくりの推進に関することや、今後第2層協議体を進めて行く上での課題等について協議した。

開催回数:4回

緊急事態宣言により第2回第1層協議体の開催は8月から11月へ延期。

- ・大野城市生活支援体制整備第1層協議体委員:14名
(学識経験者(1名)・区長(1名)・民生委員(1名)・福祉委員(1名)・介護保険事業者(1名)
- ・社会福祉法人(施設)(1名)・シニアクラブ(1名)・ボランティア連絡協議会(1名)
- ・シルバー人材センター(1名)・医療関係者(1名)・企業(1名)・基幹型地域包括支援センター(2名)
- ・北地区地域包括支援センター(1名))

開催日	議題
第1回 令和3年7月20日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・南地区の進捗報告について ・第2層協議体の取り組みについて ・啓発資料「第2層協議体の目的と役割」について
第2回 令和3年11月9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・南地区3課題の経過報告について ・第2層協議体の取り組みについて ・「暮らしのもやい帳」について ・啓発資料「第2層協議体の目的と役割」決定及び配布状況について <div style="text-align: center;">  <p>▲啓発資料「第2層協議体の目的と役割」</p> </div>
第3回 令和4年1月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・暮らしのもやい帳アンケート(中間報告) ・第2層協議体の取り組みについて ・第3層イメージの共有とあり方について
第4回 令和4年3月16日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・大野城市地域ケア会議へのシニアクラブ参加状況 ・令和3年度暮らしのもやい帳アンケート結果報告、暮らしのもやい帳(案)について ・第2層協議体の取り組みについて ・第3層イメージの共有とあり方について(第2回)

2 第2層協議体の状況

◆もやいネット南(南地区第2層協議体)

開催回数:4回 緊急事態宣言中により9月第2回開催は止むを得ず中止

・第2層協議体委員:24名

南コミ運営協議会会長・区長(6名)・福祉部部长・民生委員(各区より1名)・NPO事業部・シニアクラブ会長・南コミ運営協議会事務局長・総務・南地区包括(2名)・基幹包括・社協(2名)

新メンバー加入等で構成員の編成があり、自己紹介後に改めて社協より啓発資料に沿い第2層協議体の目的と役割について説明をさせていただいた。その後各地区の進捗状況の報告と課題等について協議をされ、令和4年度は課題等を集約・整理し、議題を詰める予定。

開催日	議 題
第1回 令和3年7月28日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体の通称変更について ・南2層の3提案に関する進捗報告 ・各区の地域課題について ・啓発資料「第2層協議体の目的と役割」について
第2回 令和3年10月29日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・偽電話詐欺や高額物品販売等から高齢者を守る対策について ・高齢者の移手段について
第3回 令和3年12月22日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の注意喚起チラシ作成案と配布について ・高齢者の移手段について (移動サービス分類と平野台区「高齢者のイス」調査報告) ・南2層の3提案に関する報告を市担当より進捗報告 ・暮らしのもやい帳アンケート実施
第4回 令和4年2月24日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害の注意喚起チラシ配布進捗状況について ・令和3年度の取り組みについて振り返り

消費者被害の注意喚起チラシ A4 サイズ 1枚(両面)▶



◆中央まどかネット(中央地区第2層協議体)

開催回数:3回 緊急事態宣言中により8月、令和4年2月の開催は止むを得ず中止。

・第2層協議体委員:21名

中央コミ運営協議会 会長・区長(5名)・コミ福祉部7名・民児協・中央コミ運営協議会事務局(2名)・中央地区包括(2名)・基幹包括・社協(2名)

令和3年1月に中央地区第2層協議体設置を承認され、5月に発足式、6月に第1回目の第2層会議が開催され、7月に「福祉推進員のつどい」で山崎教授による講演会が実施された。8月の福祉部会で、参加できなかった各区の民生委員、福祉推進員向けに講演会の動画視聴会「地区版福祉推進員のつどい」を公民館で実施することを決定し、順次開催を実施。令和4年1月、中央まどかネット基調講演「共生社会の実現に向けて」の研修会を実施し、第2回講演会動画視聴会を予定。

開催日	議題
第1回 令和3年6月22日(火)	・令和2年度の振り返り(設置要綱の目的・福祉アンケート等) ・令和3年度の活動内容について
第2回 令和3年7月9日(金)	・山崎安則教授による「福祉推進員のつどい」 基調講演「住みやすいと実感できる人づくり・地域づくり」 参加者数45名
第3回 令和4年1月19日(水)	・山崎安則教授による中央まどかネット基調講演 「共生社会の実現に向けて」の研修会 参加者数55名

令和4年1月19日
「共生社会の実現に向けて」の基調講演
(左)、中央地区の身近な事例(右) ▶



◆福祉包括ケアシステム実行委員会(東地区第2層協議体)

開催回数:5回 緊急事態宣言中により9月第2回開催は止むを得ず中止。

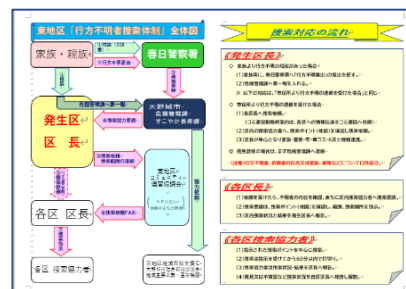
・第2層協議体委員:22名

東コミ運営協議会 会長・委員長・副委員長・民生委員(3名)・福祉部長(3名) 行政センター所長・NPO 事業部(2名)・東コミ運営協議会 事務局長・事務局(2名)・東地区包括・基幹包括(3名)・社協(2名)

令和3年度は、東コミュニティまちづくり事業計画のひとつ「認知症・SOS ネット対策」を、第2層協議体で具体的な取組について協議し実行する予定。また、令和2年12月に実施したアンケートを基に「高齢者の見守り仕組みづくり」について各区の事例を参考に取組める事を協議した。

開催日	議題
第1回 令和3年6月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症 SOS ネット事業の取組について 見守り活動の事例報告について 啓発活動について
第2回 令和3年10月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動の事例発表(中区・釜蓋区) 認知症 SOS ネット事業の具体的な取組について
第3回 令和3年11月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症 SOS ネットについて報告 見守り活動に伴う個人情報の取り扱いについて 見守り活動についての進め方について
第4回 令和4年1月13日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症 SOS ネット、行方不明者捜索体制について 見守り活動に伴う個人情報の取り扱いについて 今後の見守り活動についての進め方について 暮らしのもやい帳アンケート実施
第5回 令和4年3月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動アンケートの集計結果について ケア会議設置要綱説明 見守り活動の進め方(「東地区見守り隊」)案について

東地区「行方不明者捜索体制」全体図、創作対応の流れ ▶



◆北地区地域包括ケアシステム協議会(北地区第2層協議体)

開催回数:5回 緊急事態宣言中により8月第2回の開催は止むを得ず中止(書面会議)。

・第2層協議体委員:23名

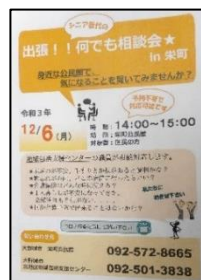
北コミ運営協議会 会長・副会長・事務局長・コミ福祉部会長・福祉部副会長・コミ福祉部会 13名・行政センター所長・NPO 事業部(PSセンター)・北地区包括・基幹包括・社協

令和3年1月「安心と暮らしを支える福祉コミュニティ」をテーマに研修会を実施し、研修会後のアンケートを基に令和3年3月に第2層協議体準備会を実施された。令和3年度は第2層協議体の周知の為、北コミ通信で事業内容や地域活動の紹介等、全4回発信をした。なお北コミ通信は令和4年度も継続を予定。

開催日	議題
第1回 令和3年7月29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・会長・副会長の選出 ・令和3年度の目標について ・北コミ通信掲載内容について ・北地区統一の訪問不在時カード作成案について ・認知症対策について ・移動支援について ・啓発資料「第2層協議体の目的と役割」について
第2回 令和3年9月8日(木)	第2回の開催は緊急事態宣言中により中止(書面会議)
第3回 令和3年11月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対策について(認知症ミニ勉強会の提案など) ・北地区統一の訪問不在時カードを投票により決定 カード名「どげんですかード」 ・1月認知症の研修会実施について ・出張！何でも相談会を栄町区より実施(ケア会議後に開催)
第4回 令和4年1月12日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・1/26 認知症研修会のテーマ等について協議 ・第3版暮らしのもやい帳アンケート実施
第5回 令和4年3月12日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症研修会個人ワークの報告 ・次年度の事業計画について ・認知症対策の継続 ・訪問不在時カード「どげんですかード」の進捗報告 ・事業計画案に沿って振り返り ・各区の取り組みや活動等の情報共有

11月出張相談会を実施
出張相談会のチラシ回覧にて周知(左)▶、

1/26 北地区福祉研修会
「安心と暮らしを支える福祉コミュニティ」(右)▶



3 生活支援コーディネーター連絡会の開催

地域の社会資源調査を行い、社会資源の情報共有や各コミュニティの福祉活動に関する情報交換を行っている。〈生活支援コーディネーター → 通称:「SC」〉

開催回数:12回(原則、毎月第3水曜日開催)

出席者:基幹型地域包括支援センターSC、4地区地域包括支援センターSC、社協SC、基幹包括担当者、社協担当者

内容:市内の社会資源調査及び社会資源の整理、第2層協議体の進捗情報共有など

10. 広報関係

共募／福祉育
成・援助活動

市内を中心とした幅広い福祉情報を掲載した「社協だより(ふくしんぼ)」を年4回発行している。令和2年度より全戸配布となり、紙面も大きくなったことで「初めてふくしんぼを手に取りました」「大野城市の福祉課題に取り組んでいることがわかります」といった嬉しいお声が届いている。アンケートや広報委員会でのご意見を参考に、より多くの市民に親しんでもらえる社協だよりになるよう努めている。

令和3年度実績

1 「社協だより」の発行

主旨： 広く地域の福祉情報を収集発信し、読みやすく、親しみやすい紙面づくりに努めている。

発行号： 185号(春号)・186号(秋号)・187号(初冬号)・188号(新春号)



2 ホームページ等による情報発信

社協活動、全社協 被災地支援・災害ボランティア情報をもとに被災地支援情報等を随時更新し、発信をしている。

3 SNSを活用した情報発信

Twitter、Facebook、LINE、YouTube を活用しながら、社協の活動や災害ボランティア情報等を積極的に発信し、タイムリーな情報発信を行っている。

《公式 LINE アカウント》

ホームページリニューアル(令和3年5月17日)に伴い、本格的に運用を開始し本会職員や理事・評議員、福祉委員など関係者から周知を開始した。9月以降は、1カ月あたりの新規追加は月10名程度で推移している。登録者は211名(2022.3.31時点)。

LINEメッセージは、ふれあいの旅(ボランティア)やYFH運営委員会、ふーちゃんパントリー、赤い羽根共同募金など各事業のお知らせや10代のボランティアさんとの連絡手段など活用の幅を広げている。11月以降は、より積極的な情報の発信と関係者とのスムーズな連絡手段の確保のため、ライトプラン(月額¥5,500/無料メッセージ数15,000通)を利用開始した。



公式 LINE アカウント卓上 POP



このQRコードをスキャンすると、大野城市社協アカウントを友だち追加できます。

11. リフトカー運行事業

リフトカー運行事業

著しく歩行が困難で車いす等を利用している人や、寝たきりの状態で既存の交通機関を利用することが困難な人に対してリフトカー2台を運行し、障がい者や高齢者の社会参加の1つの手段として活用することで、福祉の増進を図ることを目的としている。令和3年度は老朽化に伴い、2台のうち1台のリフトカーの入替をおこなった。



令和3年度実績

ワクチン接種のための運行や、感染対策をしておの通院など、令和2年度に比べ利用者が戻ってきている。

利用登録者数 : 56名(前年比 +14名)

稼働日数 : 251日(前年比 +34日) / 利用延べ人数 : 593人(前年比 +255名)

12. 福祉バス運行事業

福祉バス運行

地域の福祉活動では、ミニデイや福祉推進委員の視察研修などに、また福祉団体は各種イベントやスポーツ大会等への参加、先進地の視察研修などに福祉バスの利用が行われている。団体利用が1週間以上ない場合は、バッテリーの電気不足を起こさない様、車両の点検と整備のため稼働している。

令和3年度に運行14年目を迎え、車両の老朽化が進んでいたため、利用者からのアンケート結果に基づき、そのニーズに応えるため新車両への入れ替えをおこなった。

令和3年度実績

福祉バス運行状況：乗車26人乗り(マイクロバス)
稼働日数：116日(前年比+56日)／延べ利用者数795人(前年比+449人)
延べ利用団体数：51団体(前年比+26団体)



13. 福祉用具貸出事業

共募／老人福祉

在宅で生活するために車いすや電動ベッドを必要とする人で、公的制度を利用することができない場合、又は制度が利用決定するまでの期間に、短期間の福祉用具の貸出を行っている。

令和3年度実績

延べ貸出件数：車いす73件(前年比+8件) 電動ベッド3件(前年比-3件)

14. 福祉用具リサイクル事業

共募／老人福祉

不要になった電動ベッドや車いすなどの福祉用具を必要としている方につないで、まだ利用可能な福祉用具を活かすことを目的としている。

令和3年度実績

登録件数：0件(前年度比-1件) 斡旋件数：0件(前年度比-1件)

15. ハンディキャブ貸出事業

共募／福祉育成

車いすを利用している人や車いすを利用しないと外出が困難な人に、車いすに乗ったまま乗車できる軽自動車(ハンディキャブ)の貸し出しを行う事業で、ハンディキャブを利用する事で障がい者や高齢者の外出を容易にし、家族の負担を軽減することを目的としている。また、利用者が運転者を確保できない場合、ボランティアセンターにおいて運転ボランティアのコーディネートを行っていたが、運転ボランティアグループ「むつわ」(登録人数7名)が高齢のため、運転ボランティアという性質上安全を考慮し、令和3年度をもって解散となった。

令和3年度実績

利用登録者数:32名(前年比+1名)
運転ボランティア登録者数：8名(前年比±0名)
ハンディキャブ貸出事業実績
稼働回数:77回(前年比-9回)／延べ利用者数93人(前年比-7人)
運転ボランティア運行:50回(前年比-4回)

16. 高齢者福祉対策事業

共募／老人福祉

大野城市の高齢化率は、22.4%(令和4年3月末現在)で、令和3年4月からの1年間で0.3%の増と、ここ数年の中でみるとゆるやかな増加となっているが、65歳以上は22,800人を超え、現在、進められている生活支援体制整備事業は、これからの高齢者福祉対策の重要な施策の1つとなっている。

令和3年度実績

1 大野城市シニアクラブ連合会に対する活動援助

シニアクラブ連合会では、活力ある長寿社会の実現に向けて、生きがいと健康づくりや長年培ってきた知識、経験を地域社会のために生かす取り組みや、通学路における小学生の見守り活動等を展開されている。

職員派遣

期 日：令和3年10月4日(月)

場 所：大野城市総合グラウンド

内 容：第34回大野城市シニアクラブ連合会グラウンドゴルフ大会

2 大野城市シニアクラブ連合会への助成

共同募金配分金の助成による活動支援と会員相互の健康保持のための活動や健康医療講演会、訪問見守り活動などの活動を支援している。

17. 身体障がい者福祉対策事業

共募／障がい

身体障がい者福祉協会や障がい者施設団体連絡協議会等、当事者組織と連携を図り、ハンディを持つ人たちの社会参加をサポートしながら、当事者団体が企画する事業や会議に社協からも出席し、必要に応じての支援や情報提供を行っている。

1 翔んでふれあって2021(大野城市障がい者大運動会)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

2 重度障がい者社会参加事業

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

3 大野城市身体障がい者福祉協会への支援

共同募金配分金での助成を行なうとともに、事業の実施における活動支援をおこなった。

4 大野城市障がい者施設団体連絡協議会への支援

◇毎週土曜日に大野城まどかぴあで開設される、ほっとすぽっと「サン・サン」の支援

◇大野城心のふるさと館内(ここふるショップ)における授産品の販売

◇内部研修 日時:令和3年12月3日(金)19:00~20:30

講演:『成年後見制度 ~障がい者の成年後見制度~』

講師:弁護士 岩城 渉 氏

参加者: 61名

(ご家族・本人 16名、聴覚 3名、手話通訳 2名、団体・職員 27名、市 4名、社協 9名)

会場 総合福祉センター 3階 大会議室

18. 知的障がい児者福祉対策事業

共募／障がい

ふれあいの旅は、ハンディのある人とボランティアと1泊2日を過ごす事業として今まで38回行ってきた。39回目を迎える令和3年度は、令和2年度と同じく新型コロナウイルス感染症を考慮し、日帰りの旅として4回に分けて行うこととなった。2度の延期と内容の変更があり、最終的に11月に実施することができた。「そろそろ大人数で1泊したい」という意見が多くある一方、「少人数も良い」、「日帰りも良い」という意見もあるので、今後も様々な状況を踏まえつつ内容や開催時期を検討していく。

令和3年度実績

1 ふれあいの旅2021（第39回）

期 日：①令和3年11月6日(土) ②11月7日(日) ③11月13日(土) ④11月14日(日)
場 所：かしいかえん

参加者：

- ① 26名(参加者10名、ボランティア10名、職員4名、看護師1名、添乗員1名)
- ② 28名(参加者9名、ボランティア12名、職員5名、看護師1名、添乗員1名)
- ③ 21名(参加者8名、ボランティア8名、職員3名、看護師1名、添乗員1名)
- ④ 21名(参加者6名、ボランティア9名、職員4名、看護師1名、添乗員1名)

協力：大野城市ボランティア連絡協議会、大野城市障がい者施設団体連絡協議会
後援：大野城市手をつなぐ育成会、大野城市社会福祉法人連絡会

2 大野城市手をつなぐ育成会への助成

共同募金配分金をとおり、その活動の助成を行っている。

19. 子育て支援事業

共募／
児童青少年

大野城市に転入して間もない親子や、子育てに悩む親の支援、居場所や仲間づくりを支援するサークル登録、保育所への遊具設置など、子育て時期の不安や孤独を軽減し、親と子どもたちが安心して過ごせる場を提供し、子育てしやすい環境づくりを図っている。

令和3年度実績

1 子育て支援事業

支援内容：総合福祉センター利用料免除及び福祉バスの利用や遊具の貸出
子育てサークル活動費補助(3サークル)

登録サークル：4サークル(会員数80名)【前年:令和2年度:4サークル(会員数98名)】

◇登録子育てサークル一覧

サークル名	主な開催場所	活動時間	会員数
ぷちらいおん	総合福祉センター	1ヶ月に1回程度	17名
子連れヨガ	乙金公民館	毎月第2・4金曜日	17名
こあらくらぶ	乙金公民館	毎月第1金曜日	27名
ままいる	大野城心のふるさと館ほか	毎月2回(不定期)	19名

2 「子育てサークルだより」の発行

主 旨 : 安心して子育てできる環境を目指し、地域のサロンや、登録サークルの活動内容や市内外の子育て支援に関する情報などを発信している。新型コロナウイルスの影響で公共施設が閉館になり、サロンが中止になった時期は、サロンやサークル、おもちゃ病院の中止や開催のお知らせ、社協職員のお勧め絵本をその絵本に関する思い出と共に掲載した。

発 行 号 : 81号・82号・83号・84号・85号・86号

配 付 先 : 登録サークル4団体、コミュニティセンター、アスカーラ(まどかぴあ)、市役所こども未来課、子育て支援課、大野城心のふるさと館、ファミリー交流センター、れいわ子ども情報センター、福祉委員、コミュニティ福祉部会連絡協議会

◇たけのこ支援主催のサロン

大野城市へ転入して来る子育て中の親子や他の子育てサークルに登録していない親子に対して、交流を通して孤立を防ぎ、安心して子育てができる環境と子育てに関する情報提供の場を目的として子育てサロンや季節イベント、出前子育て支援活動などが行なわれているが、新型コロナウイルスの影響で6月、9月のサロンが中止となり、定例会で今後の活動の話し合いと行事の準備を行っている。

内 容	開 催 期 日	会 場	参加者
子育てサロン	令和3年7月21日(水)	総合福祉センター多目的室	3組
子育てサロン	令和3年11月10日(水)	総合福祉センター多目的室	6組
クリスマス会	令和3年12月1日(水)	総合福祉センター多目的室	9組
子育てサロン	令和4年2月2日(水)	総合福祉センター多目的室	4組

4 保育所に遊具等の助成【たのしい保育園】

共同募金配分金より毎年1ヶ所私立保育所へ遊具等の助成を(243,327円)行なっている。

5 遊具の貸出状況

子どもの健やかな成長を支えること、また、地域での遊びの機会を支援することを目的に、社会福祉協議会に登録している子育てサークル及び各区公民館で開催される子育てサロンに遊具の貸出しを行っている。新型コロナウイルスの影響で貸出申請は8件のみであるが、生活福祉資金特例貸付の申請で来所した未就学児親子に申請手続き中に貸し出した。

6 子育て支援者関係構築

日ごろ子育て支援活動をされる方々が、活動の思い・悩みを語り合い、情報交換や顔のみえる関係構築につながることを目的とした「Link～子育て支援つながろう会」はコロナ感染拡大防止のため、中止となった。

20. 児童青少年福祉対策事業

共募／
児童青少年

令和3年度実績

1 大野城市子ども会育成会連絡協議会への助成

共同募金配分金を活用し、子ども会育成会では、「子どもが主役だ・地域で育てよう子どもたち」を主眼に、子どもの健全育成、地域(各単位子ども会)の発展に向けて、活動が展開されている。

2 保護司会への助成

共同募金配分金をとおして、保護司会では保護司信条である社会奉仕の精神をもって、過ちに陥った人たちの更生に尽くされる活動が行われている。

21. 学校における福祉教育

共募／児
童青少年

令和3年度実績

1 福祉教育教材「ともに生きる」活用推進

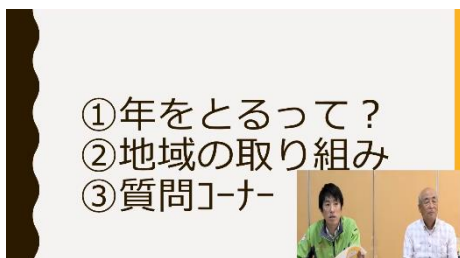
小学校へ希望調査を行い、小学校3・4年生を対象に配布し、教材を基本とした授業を実施した。

対 象 : 市内小学校3年生または4年生、福祉教育推進校(大野南小4年生)、大野城市教育委員会
配 布 数 : 1,400部
備 考 : 教職員を対象に『福祉教育教材「ともに生きる」活用の手引き』を配布した。

2 学校における福祉教育

令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から今年度も「オンライン交流」と「教室でできるミニ体験」を中心に福祉教育を実施した。

オンライン授業も2年目ということもあり、学校の先生も社協職員もZoomの扱いに慣れており、準備から授業までスムーズに進めることができた。また、新たな取組として、株式会社ベネッセコーポレーション様から動画をご提供いただき、ユニバーサルデザインやバリアフリーを考える授業をよりわかりやすく伝えることができた。



オンラインによる授業「年をとるってどういうこと？」(写真左)と「ボランティアセンターオンライン中継」(写真右)の様子

各小学校で行った福祉教育実績一覧

	開催日	学校名・学年	内 容	ゲストティーチャー
1	6月9日	大野東小4年	オンライン交流「年をとるってどういうこと?・地域について」	楠林民生委員
2	6月15日	大野東小4年	オンライン交流「高齢者について」	ラ・ナシカ乙金 (職員と入居者の皆さん)
3	6月28日	大野北小4年	オンライン交流「ユニバーサルデザインってなに?」	社協(地域課)
4	6月30日	大城小4年	オンライン交流「目が見えないってどういうこと?」	視覚障がい者・ヘルパー
5	7月6日	大野小4年	障がいがあるって?	社協:馬場
6	7月13日	大野南小4年	オンライン交流「目が見えないってどういうこと?」	視覚障がい者・ヘルパー
7	7月15日	大野小4年	オンライン交流「高齢者について」	藤福祉委員、森民生委員
8	9月10日	大野北小3年	オンライン交流「年をとるってどういうこと?」	阿相福祉委員・岩瀬民生委員
9	9月24日	大利小4年	オンライン交流「目が見えないってどういうこと?」	視覚障がい者・ヘルパー
10	9月28日	大野小4年	オンライン交流「目が見えないってどういうこと?」	視覚障がい者・ヘルパー
11	9月30日	大野北小3年	オンライン交流「認知症ってなんだろう」	北地区地域包括支援センター認知症地域支援推進員
12	10月5日	大利小4年	オンライン交流「視覚障がい者との交流」	視覚障がい者
13	11月1日	大野南小4年	オンライン交流「障がいがあるってどういうこと?～からだ編～」	社協(介護サービス課)
14	11月4日	平野小3年	オンライン交流「障がいって・・・?なんだろう?!」	大野城市障がい者支援センターまどか・ゆいばる
15	11月9日	平野小3年	オンライン交流「目が見えないってどういうこと?」	視覚障がい者・ヘルパー
16	11月12日	大野南小4年	オンライン交流「ユニバーサルデザイン・バリアフリーを考えよう」	社協(地域課)
17	11月30日	平野小3年	オンライン交流「障がいがあるってどういうこと?～からだ編～」	社協(介護サービス課)
18	12月9日	御笠の森小4年	オンライン交流「視覚障がい者との交流」	視覚障がい者・ヘルパー
19	12月10日	大野東小3年	オンライン交流「視覚障がい者との交流」	視覚障がい者・ヘルパー
20	1月28日	大野東小3年	オンライン交流「ユニバーサルデザイン・バリアフリーを考えよう」	社協(地域課)
21	2月4日	大野北小4年	ボランティアセンターオンライン中継	社協(地域課)
22	2月8日	大城小3年	オンライン交流「ユニバーサルデザイン・バリアフリーを考えよう」	社協(地域課)

23	2月8日	月の浦小3年	オンライン交流「視覚障がい者と交流」	視覚障がい者・ヘルパー
24	2月10日	大野小4年	ボランティアセンターオンライン中継	社協（地域課）
25	2月22日	月の浦小3年	オンライン交流「障がいがあるってどういうこと？～からだ編～」	社協(介護サービス課)
26	3月7日	月の浦小3年	オンライン交流「聞こえないってどんなこと？～手話を知ろう～」	聴覚障がい者・手話の会

合計回数 26回(前年比 104%) 延べ対象児童 3,371名(前年比 112%)

③ 福祉教育研修会

本研修は、学校と地域の一体的な福祉意識の向上と、子どもたちの主体的な学びにつながる福祉教育の意義や理念を、市内小・中学校の教職員並びに地域の福祉関係者がともに学び合うことを目的としています。今回は、学校教員向けにオンラインによる限定配信で開催した。

- 主催及び共催 主催：大野城市・大野城市社会福祉協議会
共催：大野城市教育委員会
- 配信期間 令和3年10月1日(金)～令和4年1月31日(月)
- 視聴方法 大野城市社会福祉協議会 YouTube からの学校教員向け限定配信
- 参加者 市内小・中学校教職員
- プログラム

(1) 基調講演

「学校と地域をつなごう」

～子どもたちを取り巻く課題共有と学校・家庭・地域の協働による福祉教育～

講師：大阪教育大学 教育学部教育協働学科教育心理学講座

大学院教育学研究科教育ファシリテーションコース 特任教授 新崎 国広 氏

【動画①】福祉教育の定義と子どもたちを取り巻く現状と課題)

【動画②】文科省の動向と学校における福祉教育のすすめ方)

(2) シンポジウム

「オンラインを活用した福祉教育の実践」

【動画③】事例1：コロナ禍の新たな福祉教育(=体験・オンライン交流)(大野南小4年)

【動画④】事例2：大野城市内におけるオンライン交流の実践

- ①高齢者施設編 (大野東小4年×ラ・ナシカ乙金)
- ②公民館編 (月の浦小3年×月の浦区福祉推進委員会)
- ③ボランティアセンター編 (大野小4年×おおのじょうボランティアセンター)

進行：大野城市社会福祉協議会 事務局長 馬場 徹

出演：大阪教育大学 特任教授 新崎 国広 氏

大野城市教育委員会 教育指導室 室長 清尾 昌利 氏

大野城市社会福祉協議会 地域課 係長 山内 友香



【写真 1】シンポジウムでは学校と地域のつながりについてもそれぞれの視点から意見交換をおこなった。



【写真 左】視覚障がいの子二林君後、気づきや感想を発表する生徒たち(大野南小4年)【写真 右】学校と高齢者施設のオンライン交流「東京で暮らす孫を思い出した」と嬉しそうに語る入所者(大野南小4年)

4 大野城市福祉教育推進校の共同事業

市内の10小学校の中から福祉教育推進校となる1校を教育委員会・校長会で選定していただき、1期2年として福祉教育教材「ともに生きる」を活用したプログラムを学校・市・社協の三者で取り組んでいる。

令和2年度からは、市内3校目となる大野南小学校の4年生を対象に、新型コロナウイルス感染予防のため、オンラインを活用した新たなプログラムをつくり福祉教育プログラムを実施した。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 第1期 (平成28年・29年度) | 大野小学校4年生 |
| 第2期 (平成30年・令和元年度) | 大野北小学校3年生・4年生 |
| 第3期 (令和2年・3年度) | 大野南小学校4年生 |

22. 母子父子福祉対策事業

共募/
母子・父子

ひとり親家庭の相談に対する支援(母子会会議での助言や活動支援等)を行なっている。

令和3年度実績

1 大野城市母子寡婦福祉会への支援

共同募金配分金を活用して、大野城市母子寡婦福祉会では、日常における母子家庭の生活の安定等を目指して、自立促進につながる総合的なひとり親家庭の施策を充実するための活動が展開されている。

◆福岡県(受託:福岡県母子寡婦福祉連合会)学習支援ボランティア事業の支援

23. 介護者支援事業

共募／老人福祉

高齢者等の介護をされている家族を対象に、日帰りのリフレッシュ事業などを開催し、介護者同士のつながりをつくることなどを目的として事業を実施している。

令和3年度実績

新型コロナウイルス感染防止に努め、ご家族の介護をされている方同士の交流や情報交換、日頃の不安や悩みを話せる場としてつどいを企画した。残念ながら、まん延防止等重点措置期間と重なったこともあり参加希望者はいなかったが、今後も介護者が不安や悩みを抱え込まないようにするための事業内容を検討する。

1. 介護者のつどい

内 容： 大野城市内に在住の高齢者(障がい含む)を介護中の方を対象に、コロナ禍で介護をされている方々に、不安や悩みを吐き出すことのできる場づくりを企画した。

期 日： 令和4年3月1日(火)

場 所： ひょうたん島(下大利 3-1-1)

24. ふくしフェスティバル 2021

共募／福祉育成・援助活動

幅広い層の市民が参加しやすい実行委員会形式で、住民の福祉についての関心を高め、理解を深めることを目的として企画実施している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、期間を広げた来場型イベントと、市ホームページを利用したオンライン参加型イベントを実施した。

ペットボトルキャップ収集ボランティアについては、クマの形をした回収容器(名前:ふ〜太)を設置するとともに、市内の小中学校にも回収ボックスを設置し、多くの方々にご協力いただいた。アンケートは 191 件の回答を頂き、福祉に関する理解促進については 161 件(87%)「理解に繋がった」との回答があった。

令和3年度実績

- 内 容：
- ペットボトルキャップ収集ボランティア(回収数 159,680 個、ワクチン 203 人分)
 - VTR 活動発表(市内福祉施設・ボランティア団体による活動 PR 動画配信)
 - 参加型イベント(期間:令和3年10月1日～11月28日)
 - ・クイズラリー！！・ペットボトルベア名前募集・ふくし川柳募集
 - ・福祉に関するほっこりエピソード募集
 - 展示型イベント(期間:令和3年11月22日～11月26日 場所:大野城まどかびあ)
 - ・参加型イベントで募集した作品・名前の発表と展示
 - ペットボトルキャップ収集ボランティア(大野城市役所・市内小中学校・大野城まどかびあ)

主 催： 大野城市ふくしフェスティバル実行委員会

共 催： 大野城市・大野城市社会福祉協議会

25. 福祉食事サービス(市受託事業)

福祉食事
サービス

在宅日常生活支援事業として、ひとり暮らしの高齢者、障がいを持った方などに1年365日食事(昼・夕)を宅配しながら安否確認・見守りを行っている。この事業では、ボランティアグループ「ききょう」の作成による絵手紙を毎月お届けしている。

令和3年度実績

	高齢者	障がい者	合計	(前年比)
のべ利用者数(人)	971	53	1,024	117%
食数計(食)	24,485	2,274	26,759	110%

26. ボランティア活動推進

ボランティアセンター

コロナ禍でも工夫しながらボランティア活動を続けるボランティアセンター登録団体を対象に、社協主催の助成を行い、17団体に助成することができた。また、なかなか活動ができないからこそ、活動PR用のチラシを作成したり、イベントを企画したりとつながりを絶やさない活動やコロナが落ち着いた後を見据えた準備を進めている。

令和3年度実績

1 ボランティア活動相談・コーディネート状況

コーディネート延べ件数 : 118件[内、ボランティア保険75件(450名加入)]

※相談延べ件数 : 82件

- ・活動希望・情報収集に関する相談件数 : 55件
- ・ボランティアニーズに関する相談件数 : 27件

※コーディネートを行ったボランティア活動の主な内容

- ・何かボランティアをしたい、自分にできるボランティアを知りたいという方へ
その方の興味のあることを聞き取ったうえでグループを紹介・活動できる場の提供
(切手整理、学習支援、災害ボランティア、国際交流、にほんご教室、不登校児支援 他)
- ・やりたい分野が決まっている方へ
団体の代表に確認をとりご紹介(手話の会、点訳サークル、拡大写本、傾聴、朗読の会、子ども食堂、障がい者団体啓発バザーお手伝い 他)

- ・施設(高齢者施設、放課後等デイサービス)や地域からの団体に来てほしいという依頼に対して施設の希望と団体や、登録している個人の方の予定の調整(マジック、傾聴ボランティア、三味線、フルート、沖縄民謡、ひよっとこ、子育てサロン)
- ・新規ボランティア団体登録(大野城まどかぴあ図書館ブックトークボランティア、Colorful-HappyFull、スマイルフレンズ)
- ・障がい児者とのふれあいの旅ボランティア
- ・イベントに参加してほしい(災害ボランティア)
- ・講座開催のお手伝い(傾聴)

2 ボランティアセンター運営委員会

運営委員（4名）：民生委員経験者、ボランティア連絡協議会、障がい者施設団体連絡協議会、有識者各1名

開催回数：4回

開催年月日		議 題	出席者
令和3年	4月2日	第1回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・(仮称)young ボランティアセンター運営委員会について ・ボランティアエントリーシステムについて ・小学生ボランティアについて	4名
	7月14日	第2回 ・ボランティアエントリーシステムについて ・ボランティア団体への助成について	4名
	10月19日	第3回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・新しい登録団体、活動を終える登録団体について	4名
令和4年	1月5日	第4回 ・おおのじょうボランティアのつどいについて ・Young Free Helper の活動について ・ボランティア団体 PR 動画について	4名

3 Young Free Helper

学生ボランティアの増加やボランティア活動について幅広い世代に知ってもらうことを目的に、学生目線のボランティア活動について考えるため、令和3年5月に発足した。8月、9月の開催はオンラインで行ったが、活発に意見が交わされていた。12月には小中学生を対象としたイベントを、ボランティアセンター登録団体のスペース虹と協力し、実施した。イベント当日はもちろん、その前の準備のための話し合いが有意義なものとなった。また、3月にはYFHのInstagramを開設したので、これから広報にも力を入れていく。

運営委員：学生8名

開催回数：11回

開催年月日		議 題	出席者
令和3年	5月8日	第1回 ・自己紹介 ・ボランティアとは、ボランティアセンターとは	8名
	7月16日	第2回 ・ボランティアのつどいについて(ご相談)	3名
	8月27日	第3回 ・委員長・副委員長決め ・委員会の名称決め ・今後の連絡手段について ・この委員会でやってみたいこと	5名
	9月24日	第4回 ・イベントの話し合い	3名
	10月22日	第5回 ・YFH ロゴ決定 ・レクリエーション等の内容	3名
	11月26日	第6回 ・イベント名決定「YFHからの贈り物」 ・レクリエーション等のタイムスケジュール決定	5名
	11月28日	イベント ・場所:スペース虹活動場所 ・対象:小中学生4名程度 ・内容:レクリエーション、草取り	2名
	12月17日	第7回 ・イベントの振り返り ・今後について ・募集について	2名

令和4年	1月7日	第8回	・イベントの振り返り ・今後について	3名
	2月4日	第9回	・ポスターについて ・動画について ・Instagram 開設検討	5名
	3月4日	第10回	・Instagram 開設 ・動画撮影	5名

4 災害ボランティアセンター設置・運営訓練

コロナ感染症拡大防止のため設置訓練は中止
災害ボランティア「ONJOJO」市安全安心課出前講座

5 被災地（久留米・大牟田等）での災害ボランティア活動希望者への情報提供・コーディネート等

大野城市民の方々に被災地においてボランティア活動を希望される方への情報提供や、ボランティア保険の手続きを行い、被災地にて注意すべきアドバイス等を行いながら送り出しを行った。

被災地での活動人数：70名（大野城市社協にて保険手続きを行われた方の人数）
【前年比 117%】

6 ボランティアエントリーシステムの運用

ホームページから簡単に申込ができるようなツールとしてのシステム構築し、ボランティアの募集を行った。今後も随時、気軽に参加できるようなボランティア活動メニューを増やしていく。

募集したボランティア活動メニュー

- ・ふれあいの旅ボランティア募集
- ・運転ボランティア説明会
- ・食料支援ボランティア
- ・傾聴ボランティア養成講座参加者募集
- ・送迎ボランティア募集

7 ボランティアセンター登録

★ボランティア登録者数（団体登録者 734名 個人登録者 157名）

★ボランティア団体登録状況

総合福祉センター1階のボランティアセンターを拠点に活動しているボランティアグループの支援を行うとともに、ボランティアセンターはボランティアのたまり場として、なくてはならないスペースであり、コピー機や大型プリンターは各種団体や地域の利用も増えている。また、ボランティア連絡協議会は、ふれあいの旅等において常に協働するとともに、共同募金配分金をとおしてその活動への助成を行っている。

◆大野城市ボランティア連絡協議会 構成数9グループ

グループ名	活動内容	会員数
大野城手話の会	手話講習会の開催、手話通訳者の派遣、聴覚障がい者との交流会	33名
点訳サークル あゆみの会	点訳講習会の開催、各種点訳活動、視覚障がい者との交流会	14名
朗読の会 文鳥	朗読講習会の開催、社協だよりや図書の吹き込み、視覚障がい者との交流会	23名

スニーカー	手をつなぐ育成会の支援、知的ハンディを持つ方々とのレクリエーション活動	10名
介護ボランティア ききょう	特別養護老人ホームでのお手伝い、食事サービス利用者への絵手紙づくり	13名
おもちゃの図書館 あいあい	障がいを持つ子どもも持たない子どもも、共に遊ぶおもちゃの図書館の開館、手作りおもちゃの作成	18名
拡大写本 虹の会	弱視の方から要請のある図書の拡大写本づくり、視覚障がい者との交流会	9名
運転ボランティア むつわ	社会福祉協議会のハンディキャブ貸出事業における車両の運転	6名
大野城要約筆記の 会びあ	聴覚障がい者への文字による同時通訳活動、要約筆記奉仕員養成講座の開催	9名

◆ボランティアセンター登録グループ 31グループ

グループ名	活動内容	会員数
NPO法人 アジア女性センター	子どもと女性の人権を守るためのサポート事業、海外支援、交流事業、 提言、ネットワーク事業(調査、研究)	140名
グループファンタジア	施設や敬老会等でのマジックボランティアやマジックによる各種団体と の交流活動	10名
創人エイサー守破離太鼓	施設や老人会、地域でのイベント等での演舞	15名
国際交流協会	コミュニティ活動等を活かした国際交流の推進	106名
子育てサポーターたけのこ支援	大野城市に引っ越してきた親子等を対象に子育てサロンを開催	11名
おもちゃ病院大野城	壊れたおもちゃの修理	4名
花の芽クラブ	障がいのある人とない人が一緒に楽しめる風船バレーボールを通して の交流活動及び普及活動	24名
ボランティアグループりんごの会	近隣の公民館や福祉施設等で唄や踊り、楽器演奏などを通しての慰問 活動	7名
大野城傾聴ボランティア「ダンボ」	大野城市内の施設等における傾聴ボランティア活動	15名
大野城学習支援室かぼちゃ	生活困窮家庭の子どもに対する学習支援や保護者への進学助言を行 う	17名
おやのかい MIRAI	発達障害の子どもや保護者、発達障害に理解ある者が会員となり、発 達障害の子どもたちが安心して就労できる企業や事業所を訪問して増 やす活動	31名
にほんご教室きんしゃい	留学生等の外国人に日本語を教え、学習することとおして国際交流 を図り会員相互の理解を深める活動	7名
演歌しゃくなげ	施設等においてギターや三味線、大正琴などの楽器を使って季節の 童謡や歌謡曲、懐メロ音楽を演奏	10名
マジック雅	マジックを通じた地域の方々との交流や、地域社会の活性や社会福 祉の情操を目指した活動	13名
LaLaLa 音楽レクリエーション	介護予防や認知症予防のための音楽療法やレクリエーションの要 素を取り入れた音楽や、子どもを対象にした音とリズムと歌を楽し む活動	8名
シニアネットオーケストラ	施設等での童謡・唱歌・懐メロなどの昔懐かしい曲の生演奏活動	25名
いきいき健康レクササイズ	レクリエーションの要素を取り入れた椅子に座ったままできる運動(エク ササイズ)や昔懐かしい歌を取り入れた運動	14名
Blue Bear Project	老人ホームでのふれあい演奏会や学校等でのライブ演奏	10名
なんくる一ず	デイサービスや老人ホーム、公民館等で三味線を使った沖縄民謡や 童謡等の演奏	12名
えがおの会「ハレハレ～hare *hale～」子どもの居場所	様々な理由で学校に行けない、または自分の居場所がないと感じる 子どもの居場所をつくる活動	8名
災害ボランティア 「ONOJO」	災害ボランティアとして必要な知識やスキルを学びながら、支援の 輪を広げる活動と災害時支援活動	14名

MELODY	音を奏で、演者も聴いてくださる方も楽しい時間を過ごしていただきたいと願い活動を行っている	7名
ハーモニカ風の会	仲間づくり、健康づくり、ボケ防止、心と体の健康に必要なのは、笑える仲間づくりと語れる笑いづくり。独奏、合奏などを行う。	14名
絵本箱	世代を超えて、みんなで絵本を楽しむ	5名
防災ほっとキッチン	災害時にあたたかい食事をとれるように、パッククッキングの普及活動 HUG（避難所運営ゲーム）の普及活動	7名
とっ・と一・たい	ボランティア活動を推進するため、会員の経験と知識を活かし、他人や社会に貢献する活動を中心とした、地方公共団体、大野城市社会福祉活動の推進に取り組む団体と、会員の連絡等、良好なボランティア維持および形成に質する共同活動を行うことを目的とする	19名
スペース虹	学校に行けない子どもたちや生活が厳しい家庭の子どもたちの居場所を開設し、食事や学習等を支援し、生活の場を提供する活動	14名
認定 NPO 法人チャイルドケアセンター	こどもたちを中心に、様々な地域の方が多世代にわたり集い、交流する場（こども食堂やフードパントリー等）を提供する活動	11名
大野城まどかびあ図書館ブックトークボランティア本のとびら（新規）	小・中学生の朝読や授業で1つのテーマに沿った本（児童書、小説、科学本など）を紹介し、読書の楽しさを知ってもらう活動	9名
Colorful-HappyFull（新規）	不登校児を抱えるご家庭に訪問し当事者及びそのご家族のカウンセリング、その他様々なプロと繋がるサポートを行う。	5名
スマイルフレンズ(新規)	子育てする親子が、毎回1つのテーマに沿って共感し合いながら友だち作りができる場、情報を提供する場です。	4名

計 599 名(前年 567 名)

8 声の広報

目の不自由な方や寝たきりの方に、青年団体連絡協議会が市の広報を、朗読の会「文鳥」が社協だより、季節のたより『紙飛行機』、希望図書等をカセットテープに吹き込み、当事者の方の近況確認のため、社協担当職員が自宅に届けている。

令和3年度実績

回数: 24回
登録利用者数: 9名(前年10名)

27. 被災地支援活動

法人運営費

共募／福祉育
成・援助活動

大野城市社会福祉協議会では、平成23年(2011年)3月11日に発生した東日本大震災にて被災し、地震、津波、原発事故、風評の被害がある福島県南相馬市を継続的に支援している。“忘れない”を合言葉に寄り添い、支援を続けている。

令和3年度実績

1 令和3年度東北応援の旅

新型コロナウイルス感染防止のため開催することはできなかったが、社協だよりで南相馬市社協よりコメントをいただくなど、交流は続いている。

2 被災地応援「福島県応援ショップ」の運営支援

総合福祉センター1階ロビーにて、「福島県応援ショップ」として福島県南相馬市の特産品等を中心に販売を行っている。購入を通じた支援を行いながら、「つながり」を大切にし、息の長い応援を継続する。福島県応援ショップ休日・夜間の「相馬きゅうり」購入要望に応るため、1階ロビーに自動販売機で販売している。

東日本大震災の復興プロジェクトのひとつとして立ち上げられた、南相馬市の福祉作業所“えんどう豆”へ社協法人化50周年に向けた啓発バッジ400個の作成を依頼した。

28. 総合相談事業

総合相談事業

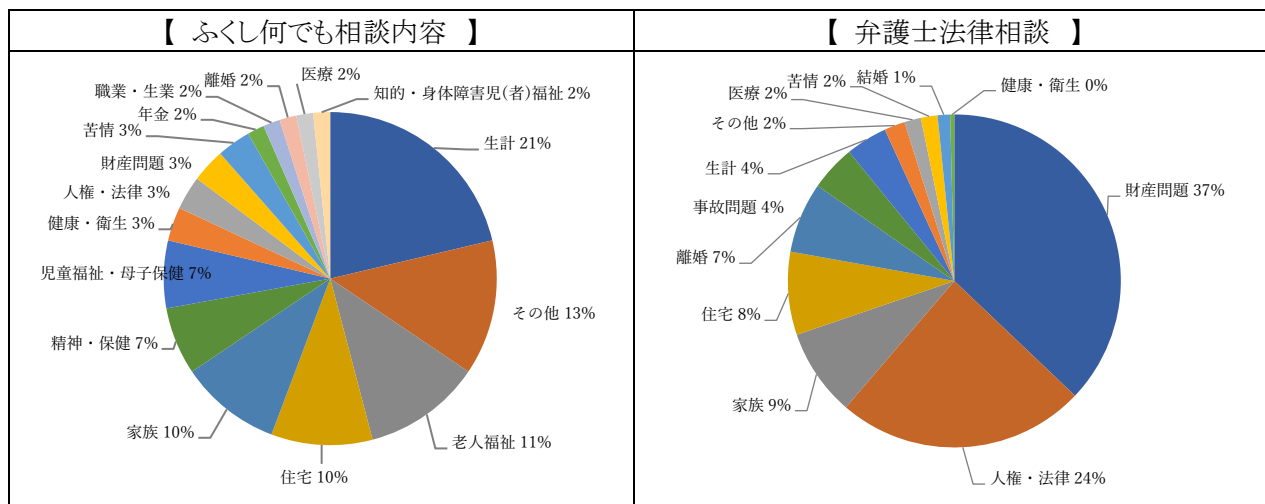
地域住民の悩みを一緒に考え、よりよい解決策をさがし、問題解決を図るため、弁護士による専門相談員や常勤相談員による助言を行う場を総合福祉センター内に設けている。

平成 29 年度より、地域住民の身近な地域で相談事業を実施するため、新たな取り組みとして4地区のコミュニティセンターにおいて、弁護士による相談事業を実施しているが、令和 3 年度も緊急事態宣言や、ワクチン接種のためコミュニティセンターが使用出来ず、8月開催分は総合福祉センターでの実施となった。令和3年度も新型コロナウイルスの影響を直接間接的に受ける相談内容も散見されるようになり、今後も相談件数が増加することが予想される。

1 相談内容・状況等

令和 3 年度実績

相談内容	相談日	相談件数 (開催回数)
ふくし何でも相談	月曜日から金曜日 9:00～17:00	61 件
弁護士による電話法律相談	毎月第 2 木曜日 10:00～12:00	37 件(12 回)
弁護士による心配ごと相談	毎月第 1 から第 4 火曜日 10:00～12:00 第 1・第 4 火曜日のみ 13:00～15:00	194 件(66 回)
弁護士による心配ごと相談 (総合福祉センター・コミュニティセンター)	(時間はいずれも 10:00～12:00) 総合福祉センター 7 月 3 日(土) 4 件 中央コミュニティセンター 7 月 17 日(土) 3 件 総合福祉センター 8 月 7 日(土) 3 件 総合福祉センター 8 月 21 日(土) 4 件	



2 相談員懇談会の開催

相談事業における近年の傾向や要望を基に、市民が活用しやすい相談事業のあり方を協議し、改善点(開催回数・開催内容)の確認と相談事例の情報交換を行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として令和 3 年度も懇談会は中止し、弁護士 6 名、相談関係職員に資料を送付し、

3 地域のニーズに応えるための協議・確認事項

他機関における各種相談との差別化を図り、法律相談以前の身の上相談を含む幅広い相談に対応している。広報についても担当弁護士と連携を図りながら積極的に取り組み、地域の方に広く利用していただけるよう環境づくりに努めている。

29. 生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

生活福祉資金
貸付事業

令和3年度実績

コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が出され福岡県下においては令和3年9月まで宣言が継続。このような状況の中で収入の減少、失業者、休業者の増加に伴い、令和2年3月より相談、申込みを開始している総合支援資金(生活支援費)、緊急小口資金の特例貸付が増加。

また、令和3年2月末からは、総合支援資金、緊急小口資金の貸付をすべて借りられた方を対象に再貸付の相談、受付も開始された。

◇生活福祉資金相談・貸付状況

(※相談件数は初回相談時を標記 ※決定件数は令和2年度申込分を含む)

種別 / 内容		相談件数	申込件数	決定件数	貸付額
総合支援資金	生活支援費	521	523	337	182,160,000円
	住宅入居費	0	0	0	0円
	一時生活再建費	1	0	0	0円
教育支援資金	就学支度費	13	8	8	2,986,000円
	教育支援費	11	5	6	1,089,000円
福祉資金	生業	0	0	0	0円
	技能修得	0	0	0	0円
	葬祭	0	0	0	0円
	転宅	2	0	1	0円
	福祉用具購入	0	0	0	0円
	障がい者自動車購入	1	0	1	1,500,000円
	住宅改修	0	0	0	0円
	療養・介護	0	0	0	0円
	災害援護・国年・エアコン・必需品	0	0	0	0円
	緊急小口資金	292	292	293	53,080,000円
不動産担保型生活資金		0	0	0	0円
その他		182	0	0	0円
合計		1025	828	645	240,815,000円

【前年比 59.8% 50%】

◇臨時特例つなぎ資金相談・貸付状況

種別 / 内容	相談件数	申込件数	決定件数	貸付額
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0円
合計	0	0	0	0円

30. 日常生活自立支援事業

日常生活自立
支援事業

社会福祉法に基づき、認知症の方、知的障がい者、精神障がい者の方で判断能力が不十分なため日常生活が困難な方に対して、自立した地域生活を送れるよう、社協に生活支援員を配置し、福祉サービスの利用や日常的金銭管理、書類等(預貯金通帳)の預かり等のサポートを行っている。

本事業の利用に関する相談、また本事業の利用者は、年々増加の一途をたどっており、マンパワーの確保が急務となっている。

本会として、日常生活自立支援事業は、市民参加が難しい権利擁護事業において、唯一市民参加が可能な事業として位置づけし、地域福祉関係者に生活支援員を担っていただき、令和3年度は1名の生活支援員を増員した。

また、新規相談における相談機関として地域包括支援センター、行政(ケースワーカー)からの相談が半数以上を占めており連携を図っていく事が必要となっている。

令和4年3月末時点

◇新規相談件数 :18名 (男性8名 女性10名)

類型内訳:認知症11名 精神5名 知的2名

◇利用者数 :27名 (男性15名 女性12名)

類型内訳:認知症15名 知的4名 精神8名

◇専門員 2名

◇生活支援員 援助活動実績表 生活支援員10名(内、担当社協職員4名)

	件数	回数	終了	開始
4月	30	54	1	2
5月	29	44	1	0
6月	26	52	3	0
7月	27	53	0	1
8月	25	54	2	0
9月	25	49	1	1
10月	25	46	0	0
11月	28	49	0	3
12月	27	53	1	0
1月	25	48	2	0
2月	25	42	0	0
3月	27	58	0	2
合計	319	602	11	9

◇生活支援員会議

開催日	内 容
7月1日(木)	・日常生活自立支援事業の現状 ・金融機関の手続きについて

10月7日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立支援事業の現状 生活支援員研修会(初任者編)報告 大野城市成年後見制度利用促進計画について
1月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立支援事業の現状 金融機関の手続きについて 新規利用者の担当相談、同行研修について 記録の仕方について

◇令和3年度生活支援員養成研修

県社協の権利擁護センターより講師を迎え、生活支援員に興味をお持ちの方、活動していただける方を対象に養成研修を実施した。研修を受けられた参加者のうち3名の方が令和4年度より活動支援いただく予定である。

期 日：令和4年1月15日(土)
場 所：大野城市総合福祉センター
参加者：11名



31. 法人後見事業

法人運営費

令和3年度実績

1 成年後見運営委員会の開催

第1回成年後見運営委員会

期 日：令和3年10月7日(木)
場 所：大野城市総合福祉センター3階大会議室
運営委員：弁護士(1)、司法書士(1)、社会福祉士(2)、行政関係者(1) 計5名
内 容：①受任中ケースの報告(2件)

第2回成年後見運営委員会

期 日：令和4年3月4日(金)
場 所：大野城市総合福祉センター3階大会議室
運営委員：弁護士(1)、司法書士(1)、社会福祉士(1)、行政関係者(1) 計4名
内 容：①受任中ケースの報告(2件)

2 成年後見制度利用促進基本計画策定及び中核機関整備等の取組状況について

大野城市では、介護保険事業計画、市民活動推進計画、障がい福祉計画と一体的に利用促進基本計画を策定済みである。専門職による専門的助言等の支援の確保や、協議体等の事務局など、地域連携ネットワークのコーディネートを担う中核機関の設置に向けて、令和3年9月から、市役所関係部署と社協で会議を行っている。その中で、まず中核機関の主な役割(広報機能・相談機能・利用促進機能・後見人支援機能)について、それぞれの部署での現在の実施状況の確認を行う。令和4年度からすこやか長寿課および福祉サービス課と機能分担及び協働しながら、中核機関としてパンフレットの作成や研修会の開催等の広報機能および相談機能を中心に取り組む予定である。

3 死後事務委任事業の開発にむけて

第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画の重点事業の1つで「人生を自分らしく生き抜くためのサポート事業」として位置づけている。生活支援課に死後事務の現状を確認し、弁護士にも相談しながら検討を進め、令和4年度から日常生活自立支援事業の利用者の中で、生活保護を受給されており、亡くなられた後の支払いを手伝ってくれる親族等がない方と契約を交わし、死後事務について支援を行う予定である。

32. ライフレスキュー事業

法人運営費

社会福祉法人の公益事業として県下で進められている生活困窮者等に対する相談・支援事業である「ふくおかライフレスキュー事業：主管福岡県社会福祉協議会等」に参加し、権利擁護事業の拡充を図る。この事業に参画する市内の社会福祉法人及び市の関係部署とも連携を図りながら、緊急を要する人への食材支援、ライフラインの復旧などの経済的援助（現物給付）を行い、個別支援を強化する。

令和3年度実績

新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な資金の緊急貸付の受付期間の度重なる延長に伴い、令和3年度も収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯に対しては、申請を受付け、貸付に繋がっている世帯は増えている。ライフレスキュー事業としての活動実績はないが、㈱セブン-イレブン・ジャパンおよび市内の企業から寄贈して頂いた食品等を貸付相談者等に配布させて頂く。令和4年度から新型コロナウイルス特例貸付の償還業務が開始される予定である。そのことに伴い、市町村社協としての業務として、生活困窮状態が続いている借受人世帯への相談支援を行う予定である。相談支援を行う中で、制度に繋がるまでの期間に支援が必要なケースもでてくると思われるので、必要に応じて対応を検討していく。

<介護サービス>

33. 介護サービス事業

市受託事業
 居宅介護等支援事業
 指定訪問介護事業
 訪問型サービス
 指定訪問入浴
 障がい福祉サービス事業
 地域生活支援事業

介護サービス事業については、地域福祉活動の視点をもって社協らしい介護サービス事業を展開すべく職員の資質向上に努めた。

区分	施策	活動内容
介護保険事業	指定居宅介護支援事業	介護支援専門員によるケアプランの作成(要介護及び総合事業)
	指定訪問介護事業	訪問介護員が居宅に伺い、身体介護・生活援助のホームヘルプサービスの提供 〈実施〉月～日曜日 7:00～24:00
	指定訪問入浴介護事業	看護職員等が居宅に移動入浴車で伺い、浴槽を搬入し入浴介護サービスの提供 〈実施〉月～日曜日 8:30～21:00
総合事業	訪問型サービス国基準	訪問介護員が居宅に伺い、主に身体介護のホームヘルプサービスの提供 〈実施〉月～日曜日 8:30～17:00
地域生活支援事業	移動支援	平成 18 年 10 月より新設された障がい福祉サービスの一部 ・移動支援 移動に支援を必要とする方を対象とした移動支援サービス。屋外での移動が困難な障がい児(者)に対して、余暇活動や社会生活上必要な外出時の支援及び学校等への送迎を行う
	訪問入浴サービス事業	身体障がい者の方(65歳未満)・介護保険外の高齢者の方への移動入浴車による入浴介護サービスの提供
受託事業	赤ちゃんホームヘルプサービス	基本的には生後 12 週間以内の赤ちゃんのいる家庭を対象に、日常支援が必要な場合にホームヘルパーを派遣する
	乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん訪問事業)	生後 4 か月未満の乳児のいる家庭に訪問し、育児に関する不安や悩みの聴取・相談、親子の心身の状況や養育環境の把握、子育て支援に関する情報提供を行う
障がい福祉サービス	居宅介護	ホームヘルプサービスと呼ばれているサービスで、自宅で入浴・排泄・食事などの介護を行う
	重度訪問介護	重度の肢体不自由者で、常に介護が必要な障がい者に、自宅で入浴・排泄・食事の介助を行う。外出時の移動を助け、移動中の介護も行う
	行動援護	知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な障がい者に、行動するときの危険を回避する援助や外出時の移動の補助を行う
	同行援護	視覚障がいにより、移動に著しい困難を有する者に、外出時において同行し、移動に必要な情報を提供するとともに、移動の援護、排泄・食事等の介護等を行う
制度外	ほっとサポート	①制度上(障害者総合支援法、介護保険等)のホームヘルパー派遣において制限をうける人 ②ホームヘルパーの派遣をうけないと日常生活に支障をきたす人を対象とするサービス。地域の中で安心して暮らせるように、日常生活に必要な介護等の支援を行うことを目的とした大野城市社会福祉協議会独自の事業

令和3年度実績

1 介護サービス状況（介護保険・障害福祉サービス・受託事業・制度外支援）

		合計 (年度)	前年比	
介護保険適用	居宅サービスケアプラン作成(人)	641	95%	
	介護予防ケアプラン作成(人)	48	100%	
	指定訪問介護(人)	194	83%	
	指定介護予防訪問介護(人)	-	0%	
	指定訪問入浴(人)	65	93%	
	指定予防訪問入浴(人)	-	0%	
	件数合計		948	92%
	ヘルパー実働(時間)	身体介護	736	67%
		生活援助	888	78%
		予防訪問介護	-	0%
計		1623	73%	
入浴スタッフ稼働回数	実施	313	87%	
	キャンセル	27	108%	
総合事業	総合事業ケアプラン作成(人)	12	100%	
	訪問型サービス国基準(人)	92	87%	
	訪問型サービスA(人)	-	0%	
	件数合計		104	88%
	ヘルパー実働(時間)	訪問型(国)	712	95%
		訪問型(A)	-	0%
計		712	95%	
受託事業	赤ちゃんヘルプ	対象者 延べ人数	271	139%
		時間	425	182%
		回数	271	139%
	こんにちは赤ちゃん	対象者数	27	123%
		訪問修了者	27	123%
サービス利用者計		298	119%	
制度外事業	ほっとサポート	対象者 延べ人数	144	162%
		時間	115	140%
	※制度の対象外支援			
	1時間 3,500円(生保世帯は1,700円)			

		計画相談	0	0%	
指定特定相談支援		モニタリング	0	0%	
障害福祉サービス	居宅介護	対象者(人)	障害者	219	89%
			知的障害者	51	113%
			障害児	19	0%
		計		289	99%
		身体介護(時間)	障害者	2709	97%
			知的障害者	481	107%
	障害児		248	-	
	計		3438	106%	
	家事援助(時間)	障害者	150	55%	
		知的障害者	270	80%	
		障害児	-	0%	
		計	420	69%	
合計		3857	100%		
重度訪問介護	対象者(人)	身体障害者	13	59%	
	時間	身体障害者	247	44%	
行動支援	対象者(人)	障害者	-	0%	
		知的障害者	6	75%	
		障害児	-	0%	
	計		6	75%	
	時間	障害者	-	0%	
		知的障害者	58	81%	
障害児		-	0%		
計		58	81%		
同行支援	対象者(人)	視覚障害者	17	94%	
	時間	視覚障害者	129	99%	
地域生活支援事業	対象者(人)	障害者	24	126%	
		知的障害者	10	32%	
		障害児	27	44%	
		計	61	55%	
	移動身体あり(時間)	障害者	169	111%	
		知的障害者	30	33%	
		障害児	23	13%	
	計		222	52%	
	移動身体なし(時間)	障害者	-	0%	
		知的障害者	-	0%	
障害児		35	33%		
計		35	27%		
合計		257	46%		
入浴事業対象者(人)		25	74%		
障害者(回)		158	67%		
計		86	59%		
障害福祉対象者計		411	85%		

3 介護サービス研修会

令和3年度大野城市社会福祉協議会介護サービス研修計画

	訪問介護	訪問入浴	居宅	合同
4月10日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○2021年度の事業方針について・大野城市生活体制整備事業について(講師:馬場事務局長) <ワークショップ>(担当 福島)	○	○		
5月8日(土) 9:00~11:00 ○重層的支援体制整備事業の中での社協ヘルパーの役割について(担当 福島) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワーク	○	○		
6月12日(土) 9:00~11:00 ○感染症防止について～後悔しないための知識と方法(担当 貝原) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワーク	○	○		
7月10日(土)9:00~11:00 ○接遇について(担当総務・中山、鬼塚) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5日間に振り分けての研修会	○	○	○	○
8月14日(土) 9:00~11:00 ○緊急時の事例を考える～沢山の事例を疑似体験し支援に活かす～(担当 秦) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワーク	○	○		
9月11日(土)9:00~11:00 ○身体介護技術～定番技術の落とし穴を知る～(担当 今坂) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワーク	○	○		
10月9日(土)9:00~11:00 社協3F大会議室 ○障害理解について～理解しているだけ?理解しているつもりではプロではない～(担当 幸)	○	○		
11月13日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○口腔ケアについて～できていますか?正しい口腔ケア(担当 松田) 講師:医療法人 はなだ歯科クリニック 理事長 花田真也氏	○	○		
12月11日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○人権研修・利用者のプライバシー保護・倫理観及び法令遵守(担当総務・ケアマネ) 講師:NPO法人ホームレス支援 福岡おにぎりの会 木戸勝也氏 中村氏	○	○	○	○
1月8日(土) 9:00~11:00 社協2F多目的室 ○認知症対応の事例を考える～最新の認知症情報～(担当 福島)	○	○		
2月12日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○ハラスメントについて(担当 幸) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワーク	○	○		
3月12日(土) 9:00~11:00 社協3F大会議室 ○一年間の研修と事例を通してのまとめ～担当 (担当 福島) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のためホームワーク	○	○		

講師都合により順番が変動する可能性があります。

4 実習生受け入れ状況

◇令和3年度 訪問介護実習生受け入れ状況

団体名	期間	人数
なし	なし	0

◇令和3年度 福岡県介護支援専門員実務者研修

団体名	期間	人数
なし	なし	0

34. 社会福祉援助技術現場実習受け入れ

法人運営費

将来の福祉従事者を育成する一環として、各学校からの実習生の受け入れを行なっている。実習内容は、社会福祉協議会の事業全般にはじまり、介護サービス(訪問介護、訪問入浴)、コミュニティワーカーの地域福祉活動の現場実習等、様々なカリキュラムを組んでいる。

令和3年度実績

◇実習生受け入れ状況

実習期間	大学名	人数
新型コロナによる緊急事態宣言で延期 9月15日～10月26日	西南学院大学 筑紫女学園大学 九州保健福祉大学	3

35. 職員の資格（取得）状況

資格等名	社会福祉士	社会福祉主事	社会保険労務士	ボランティアコーディネーションカ	ボランティアコーディネーションカ	社協会計実務通信講座			簿記3級以上	介護支援専門員	主任介護支援専門員	看護師	介護福祉士	介護福祉士実務者研修	介護職員初任者研修	ガイドヘルパー	行動援護	強度行動援護	同行援護	障がい者ヘルパー	精神障がい者ヘルパー	難病ヘルパー	喀痰吸引（第3号）
				2級	3級	上級	中級	入門															
総数	10	8	1	2	5	1	1	1	11	6	2	2	17	1	17	11	4	2	3	6	5	5	2
資格等名	認知症キャラバンメイト	バリデーション	障害者相談支援従事者	社会福祉士実習指導者	介護福祉士実習指導者	成年後見人養成	福祉住環境コーディネーター	介護クランク事務	医療事務	応急手当普及員	防災士	防火管理者	保育士	幼稚園教諭	調理師	食品衛生責任者	図書館司書	第二種衛生管理者	大型一種運転免許	医療的ケア児コーディネーター	一般旅行業務取扱主任者	一級級建築士	公認心理師
総数	2	2	2	4	1	1	3	1	2	5	5	5	4	2	3	2	2	2	2	1	1	1	1

延べ総数 177

36. 職員内部研修

法人運営費

◇令和3年度職員内部研修

① 接遇研修

コロナ禍のため、開催回数を8回に分け、少人数実施した。

開催日	令和3年7月12日(月)～16日(金) 午前10:00～午後1:30～(90分間)
開催場所	大野城市総合福祉センター
参加者	職員40名
研修内容	① DVD 視聴 ○介護職員に求められる意識と基本接遇マナー ・介護職が身につけるべきマナーの基本(態度、表情、語調、ことばづかい) ○訪問介護で求められる接遇マナー ・訪問介護のグレーゾーン ・プライバシーと個人情報の保護 ・利用者家族からのハラスメント ② 事例検討 ○個人ワーク ○課題の共有 ○解決策の具体化

② 人権研修

開催日	令和3年12月11日(土)9:00～11:00
開催場所	大野城市総合福祉センター
参加者	職員47名
研修内容	講師：NPO法人ホームレス支援 福岡おにぎりの会 木戸 勝也 先生 演題：『ホームレス』と人権

令和3年度実績

市民のみなさまをはじめ多くの方々にご協力頂いた共同募金運動は、地域の福祉活動費や福祉団体への助成、社会福祉協議会が行なう様々な福祉事業に活かされている。

1 赤い羽根共同募金ポスター募集（一般公募）

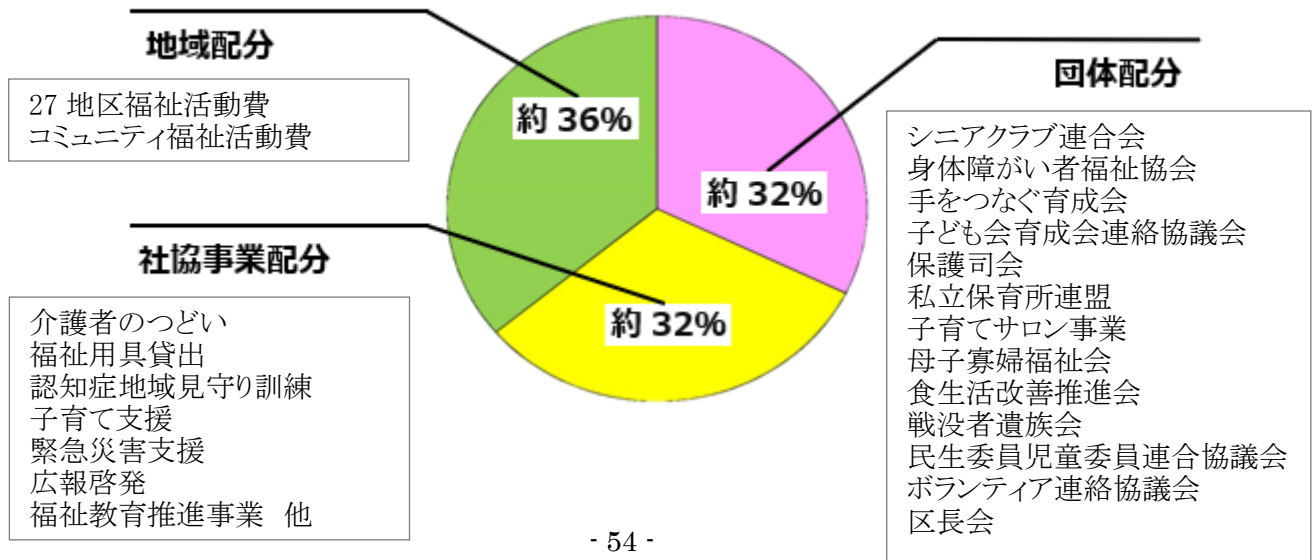
内 容：「じぶんの町を良くするしくみ。」を題材に、募金を介した人のやさしさや思いやりの心を伝える赤い羽根共同募金ポスターを募集した。
(広報大野城、社協 HP、社協 SNS、各コミュニティセンターにポスター掲示)
しかしながら、今年度は応募が 1 件もなく、来年度は実施方法について見直しが必要である。

2 目安額・実績額

(単位：円)

	令和3年度		令和2年度	
	目安額	実績額	目安額	実績額
戸別募金	13,900,000	14,168,349	14,400,000	13,752,240
企業募金	2,300,000	2,147,566	2,500,000	2,271,120
街頭募金	100,000	144,495	250,000	109,602
職域団体募金	776,000	526,645	863,000	760,747
バッジ等募金	580,000	600,325	554,000	574,838
個人募金	275,000	405,862	314,000	273,209
イベント募金	1,000	0	10,000	955
自販機売上募金	468,000	514,795	596,000	463,368
募金箱設置協力	300,000	240,201	263,000	300,352
寄付つき商品による募金	50,000	10,826	66,000	38,342
合計	18,750,000	18,759,064	19,816,000	18,544,773

令和3年配分実績



3 寄付つき商品

大野城市内の事業所にご協力いただき、共同募金（寄付）商品の開発を行い推進している。

商 品 : かりんとう
 協力企業 : 有限会社天龍堂製菓(大野城市仲畑)

商 品 : クッキー
 協力企業 : ファン工房 ほゝえみ(大野城市若草)
 募 金 額 : 10,826 円 (10,826 個)

4 支会理事会開催状況 (理事総数 16名)

開催年月日			議 題		出席者
令和3年	8月24日 (書面表決)	第1回	第1号議案 第2号議案	令和2年度福岡県共同募金会大野城市支会 事業報告について 他	16名
	9月14日 (書面表決)	第2回	第3号議案 第4号議案	福岡県共同募金会大野城市支会理事の選任 について他	16名
令和4年	2月10日	第3回	第5号議案	福岡県共同募金会大野城市支会の規程改正 について	13名
	3月29日	第4回	第6号議案 第7号議案	福岡県共同募金会大野城市支会事業計画 (案)について 福岡県共同募金会大野城市支会収支資金予 算書(案)について	12名

5 令和3年度赤い羽根共同募金のつどい in おおのじょう

令和2年度の赤い羽根共同募金のつどいは、共同募金運動の啓発を目的としたパネルなどの掲示物を展示した。今年度は共同募金の受配団体や協力企業のインタビュー動画を撮影し、大野城社協公式YouTubeにアップロードし広く市民に啓発を行った。

第1話 (受配団体) ひじり保育園からのメッセージ
 第2話 (協力企業) 京食品株式会社社長メッセージ
 第3話 (協力企業) 株式会社東洋ナビックス社長メッセージ
 第4話 (受配団体) 大野城市母子寡婦福祉会会長メッセージ

6 被災地支援義援金

市民の皆さまから預かりした多額の義援金は、被災地に設置された義援金配分委員会を通じて被災者へ分配される予定である。

令和3年2月福島県沖地震災害義援金	26,555 円
令和3年7月島根県大雨災害義援金	317 円
令和3年島根県松江市大規模災害義援金	237 円
令和3年7月大雨災害静岡県義援金	12,320 円
令和3年8月福岡県豪雨災害義援金	45,837 円
令和3年大雨災害義援金(中央共同募金会)	7,982 円
令和3年8月佐賀県豪雨災害義援金	1,892 円
令和3年8月大雨災害青森義援金	1,000 円
長崎県令和3年8月大雨災害義援金	1,050 円
合計	97,190 円

★基本方針★

昨今、国を中心として、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けること」ができる多様性と包摂性（インクルシブ）のある社会づくりを目指し、様々な法の整備を行っています。まず、高齢者に関しては、介護保険制度の改正とともに、在宅生活を支える地域包括ケアシステム構築のため「生活支援体制整備事業」により、協議体の設置、生活支援コーディネーターの設置、社会資源開発などを進められています。大野城市においては、社会福祉協議会が委託を受けて、その一翼を担っています。障がい者に関しては、合理的配慮を概念とした社会づくり、子どもに関しては、子育てを支援する体制の整備が進められています。共通した生活課題となる貧困に関する支援策も行われています。しかし、ひとりの人が抱える悩みは、重なり合い複雑化していることから、国は今までの高齢者・障がい者・子ども・貧困など縦割りではなく、重層的な体制を整備し、地域住民の生活課題を「丸ごと」解決する仕組みをつくる「重層的支援体制整備事業」を市町村で計画実施するよう推進しています。今まで、各区やコミュニティで市民の方々が主体的に進めてこられた“地域福祉活動”そのものが、システムとして施行されることになると捉えています。ひとりも残さず、すべての人の“ふくしのまちづくり”のために、社会福祉協議会は担当部署にかかわらず、すべての職員が寄せられる市民の困りごとを受け止め、その解決へ向けて、行政機関・専門機関・教育関係者・地域関係者・ボランティア団体・福祉団体・社会福祉法人連絡会・障がい者施設団体連絡協議会・NPO法人等関係団体や企業関係者と、今まで以上に連携し「支援する人を支援する」しくみづくりに取り組んでまいります。また、2020年新型コロナウイルス感染症により、“つながり”の重要性が明らかになりました。先人が唱えてきた“向こう三軒両隣”運動の啓発も一層進めて参ります。

◆重点方針◆

- 1) 法人の充実…「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現にあたり、福祉の拠点を担う職員の育成
社協を担う職員＝専門力(プロフェッショナル)+総合力(ジェネラリスト)
- 2) 「支援する人を支援する」・「助ける人を助ける」…さまざまな支援・地域福祉に尽力する皆さんを社会で支援する・助ける仕組みを試行する。
- 3) 東日本大震災より10年の節目にあたり、南相馬市の地域の自治力の再編を復興の軌跡から学ぶ
- 4) 2022年法人化50周年…感謝をキーワードに準備に入る。
- 5) 第3期大野城市地域福祉活動における市民活動推進計画の遂行
 - ・今年度より第3期となる市民活動推進計画が始まります。今回の計画では、10の重点事業のうち、新たに策定されたものが7事業。第2期計画より継続して策定されたものが3事業、第2期計画の事業のうち今年度より通常事業としておこなうものが7事業あります。
 - ・今年度も市福祉課をはじめとする行政と連携しながら第3期計画の事業を進めていきます。
- 6) 社協よろず相談所…市民のみなさんが気軽に立ち寄ることのできる総合福祉センターと何でも相談できる環境を整備する。

◆重点事業◆

以下☆マーク…第3期市民活動推進計画

◇総務企画課◇

《健全な法人運営》

- ・収入と支出をあわせた財政の管理をおこなう。
- ・法令の学習と法令を遵守した法人運営をおこなう。

《業務の効率化》

- ・システムの効率的な活用と機器ネットワークの安全性を図るための整備をおこなう。
- ・リモートによる講座や研修会に対応した設備の整理をおこなう。
- ・福祉バスの福祉活動支援事業、移送支援事業を安全に利用いただくため車両整備を行う。

《総合福祉センター利活用》

- ・総合福祉センター利用者アンケートを反映した市民が安心して使用できる施設を目指し、適切な管理と運営を実施する。

《指定寄附の執行》

- ・指定寄附…「東北応援M基金」での東北応援事業実施を支援する。
「困った☺」を助ける人を助ける指定寄附の仕組みにチャレンジする。

◇地 域 課◇

《市民ニーズの調査研究》

☆市民活動計画を進めるにあたり、市民ニーズの調査は必須とされます。市民が求める地域福祉活動や多種多様化する福祉ニーズにも対応していき、長年おこなわれている番茶の会や地域福祉活動に関するアンケート調査をはじめ、様々なニーズを把握するため調査研究を行う。

《第2層協議体との連携強化》

・昨年、すべてのコミュニティに第2層協議体が設置され、今年度より新しい体制で始まる大野城市での生活支援体制整備事業で、特に第2層協議体とも連携を図り、地域課題の抽出や新たなニーズの発掘を行い、課題解決や新たな取り組みの検討など取り組んでいきます。

《災害時の助け合いの仕組み》

- ・区の避難活動と社会福祉施設の連携を支援する。
- ・市担当部署と災害時の避難者支援を協働する。

《広報事業の拡充“社協を知ってもらう”》

- ・ホームページのリニューアルの効果的な活用
Twitter発信・フォロワーを増やす、公式LINE友だちを増やす
- ・令和2年度から年3回タブロイド版☐年4回に拡充

《未来へつながるボランティア活動》

☆持続可能なボランティアセンター構築のため、現在のボランティアセンター運営委員会に加えてyoungボランティアセンター運営委員会を設置し、近隣の大学ボランティアセンターとの連携を図る。

《マンションとの連携》

☆区と連携し、マンション管理組合等とつながり、出前講座や相談会を開催する。

《働き盛り世代の介護者支援》

☆「介護講座」の夜間休日および開催時間等具体的なニーズ調査をおこなう。

《共同募金》

募金運動の新たな形を試行し研究する。

1. 非対面募金（スマホQRコード決済サービス・【中央共募】定期引き落とし・クレジットカード決済の推進）
2. はねっとシステムの周知で共同募金による活動報告を拡げる。
3. 赤い羽根の共同募金運動による社会づくりを学校における福祉教育で未来をつくる次世代を育成する。

◇権利擁護課◇

《総合相談事業》

☆総合相談事業において各専門機関の最新の情報収集を行い、相談者にスムーズに情報提供できる体制を整える。

《日常生活自立支援事業》

☆生活支援員養成研修を継続的に開催し、支援員の増員をおこなう。

《多機関連携》

・日常自立支援事業から後見制度への移行を行うために、居宅介護支援事業所・障がい者相談支援事業所・包括支援センター・福祉課等との連携強化を行う。

☆他機関との連携のもと死後事務事業の事業化を開始する。

◇介護サービス◇

《働き盛り世代の介護者支援》

☆「介護講座」の夜間休日および開催時間等具体的なニーズ調査に協力する。

《居宅介護支援事業》

・サービスを組み合わせるだけでなく、利用者や家族や友人、地域の方と多職種支援者の「人」と「力」をつないでいく事を第一目標とし支援してする。

《居宅介護サービス事業》

・障がい福祉サービス提供地域を拡大する。

・赤ちゃんから高齢者の方まで、「生きる」ことを支えるための業務であることを認識し、現状の支援技術の専門性を高めるだけでなく、新たな支援技術の専門性を作り出していけるよう業務に挑む。